

の、作がある。

其他尙他に澤山な舞曲がある。もう二つ三つ説明して本節を終る事としやう。

タランテラ Tarantella は人もよく知る舞曲であつて伊太利から起つたものである。八分の三又は八分の六拍子の極めて早い曲である。元來タランテラと言ふのは有毒蜘蛛の名であるが、此の蜘蛛は鳥をも取り食ふと言ふ大變強い毒をもつて居る。人が此の蜘蛛に咬まれると舞踏狂になり、之を醫すのには激烈急速に舞踏するのだと言ふ事である。だから此の曲は大變にテンポが早いのだと傳へられる。現今では此の舞曲から採つた獨奏曲となつてピアノ、バイオリン、セロ、等で奏される様に美化されて居るものが澤山に出来て居る。

チロルエン Tyrolienne は圓舞曲で四分の三拍子である。シチリアノ Siciliano は八分の六又は八分の十二拍子の遅き牧歌調の舞曲でシシリヤ農夫の舞踏曲である。Seguidilla は四分の三拍子の單調でイスパニヤの舞曲。Reel はスコットランドの舞曲

で四分の四拍子又は八分の六拍子。Redowa は四分の二又は四分の三拍子の快活なポヘミアの舞曲。Rigadoun(英) Rigandon(佛)は田舎風の快活な舞曲、主に二分の二拍子である。Passamezzo は伊太利の遅き舞曲、Pavanに類似した四分の二拍子である。Passepied は快活な佛國風の舞曲で四分の三又は八分の三拍子。Pavan(英) Pavane(伊) Pavane(佛)は十六世紀に流行した二拍子の遅き舞踏曲。Polka は四分の二拍子で出来て居て快活なポヘミアの圓舞曲である、稍遅き三拍子の第三拍にアクセントを有するものと Polka, Mazurka と言ひ、それより少し早いテンポのもので第一拍にアクセントを置くものと Polka, Redows と言ふ。Monferina は伊太利の快活な舞曲で八分の六拍子。Loure は佛國の遅き舞曲で四分の八拍子。Kasake はロシア國風舞曲で四分の二拍子。Kalamanka は四分の二拍子のハンガリー舞曲で快活なもの。Frakcaise は四分の三又は八分の六拍子。Fackeltanz はミニエット風の四分の四拍子。Calata は伊太利の快活な四分の二拍子。Anglaise は英國の舞曲である。

其他伊太利 Bergamask の農夫の様を模した田舎風の舞曲に Bergamask、英) Bergamasca(伊) Bergamasque(佛)と言ふのがあり、イスパニアの快活な舞曲に Fandango と言つて Castanet やら Tambourine などをもつて歌の間々に踊るものがあるが、之はモッアルトなどによつて歌劇にも採り入れられて居る。

Galop(英) Galop(佛) Galopp(獨) Galoppo(伊)は四分の二拍子の速い快活な圓舞曲であつて、舞踏會などの通常番組の最後に演ぜられるものである。

昔の舞踏は専ら歌の伴奏やら時に或は自ら歌ひつゝ踊つたものであつたが、器樂が發達して來るにつれて漸次其の曲節は器樂に移され Sings や Paritta となり、更にソナタやシンフォニーの如き大器樂にまで進歩した。西洋古代の諸宗教樂が混漫冗雜な曲風であつたものを脱して、近世の大器樂を致したものは規矩的な舞踏曲のリズムと、フォークソングの快活な旋律との影響に負ふ事が到つて多いのである。換言すれば現在の大型樂の前身は要するに舞曲にあると言ひ得られる。

あまり詳細に説明しすぎた様にちもふが、要するに舞踏は社交的の意味のみならず、それが運動としても、舞曲の方面からは耳の教育としても教育上重大なる意味があるのであるから、教育上十分に今後尙研究の餘地があらうと思ふ。歐洲先進國の舞踏を十分に調査し尙我國在來の踊りやフォーク・ソング(フォークスリッド)を加味した、我國民性に適當なるフォーク、ダンスを作る事は今日の急務である。今日の我國の教育ダンスの如く西洋の直輸入では尙十分に我國民性に會ふとは思はれぬ。京都のどこかの學校でフォーク・ダンスだなど、名だけは立派なものが出来て居る由新聞に報じて居るが、どの様なものか私は尙見て居らない。

## 第二 聽く事の教育

耳の教育に大切な道具は澤山ある。其の内でも最も手軽で是非必要な、しかも便利で有効なものは蓄音器である。蓄音器のない學校は時代後れである。第一蓄音器は如何

なる大家の演出も直ちに如何なる場所に於ても聞く事が出来、何時でも鑑賞する事が出来る。それが器樂であると聲樂であるとの論なく、ソロであるとオーグストラであるとコーラスであるとの別なく、總てレコードに入つて居るのである。有名なる歌劇の序曲も主題曲もせまき音樂教室に於て聞かれるのである。今の教育界では唱歌教授と言へば直ちに何かを教へて歌はせなければならぬものゝ如く考へて居るけれども、他に耳の教育として大切な事のあるのを知らない。つまり唱歌集にある様な歌を歌はせる事も大切であるにちがひないが、一方から考へると有名な大家の演出したものを聞かせる事を忘れて居る。大家と言ふものはどんな聲をどんな風に出すものであるか。又どんな風に歌ひこなすものであるかと言ふ事は蓄音器でちやんとわかる。現今坊間に賣出されて居る蓄音器には随分に立派なのがあつて——形でない、質の立派なのである。——獨唱なんかを殆んど人聲（肉聲）と違はぬ位にまで正しく出し得る様になつて居るから、音樂會などに行つて直接聞くのとあまり變化のない位にまで進歩

して居るのである。或る舞踏會ではピアノで彈奏しないで舞踏曲を蓄音器で奏した事があつたが、十四五間四方の大舞踏場で約百名の人々がどどん飛び上つて居つても、蓄音器一個でよく通つたのである。教師の歌ひ得ない様な歌はレコードで聞かせる事が出来るし、伴奏なんかもピアノ、オルガンでしなくてもよく出来るのである。

實唱小中學校の唱歌の先生だつて皆が皆まで音樂的天才ではない。又聲樂の人もあれば器樂の人もある。藝術的な音樂家もあれば理論家もあるのだから、教師の不得手な所は蓄音器で以て是非とも補つてゆく必要がある。又ピアノ・オルガンなどのソロは先生一人でも出来るだらうけれども、オーグストラの演出など言ふ事になつては不可能である。此處は蓄音器の大切な有がたい所なのだ。之は他の音樂を聞く場合であるが、自分等の歌つたものを自分が遠い所から聞くと言ふ事は蓄音器での最も有がたい所なのである。つまり主觀的の自分等の聲を客觀的に聞くのである。實際自分が自分で教室で歌つて居る場合は自分の歌として歌ふのだから、歌ふと言ふ努力の爲に

自分の歌つた歌を鑑賞する時間がない。此の點になると蓄音器に兒童の歌つたソロなリコーラスなりを入れて置いて、その歌つた級の生徒に「皆さんの歌つた歌を聞きませう。」と言つて教師も生徒も共に聞くのである。すると兒童自身として主觀的に歌つた歌を今度はその通り客觀的に聞く事が出来るのである。耳の教育でも他人の演出したものを聞くばかりではなく、自分の歌つたものを自分で聞く事も必要なのである。かゝる蓄音器の教育的使用法は京都市でも早くから小學校に於て行はれて居るのである。

従來の耳の教育は主として唱歌教育なのであつた。先生がピアノで以て歌を教へると生徒は之について歌ふのである。それも是非必要な事ではあるが一方に唱歌を聴く事が缺けて居つたのである。聴くと言ふ事は歌ふと言ふ事と同等に必要な事であるが従來の耳の教育は主として此の歌ふと言ふ事ばかりに努力したものであるから、際樂會に出て行つてその曲を鑑賞する様な事は出来なかつたのである。此の點から言ふと

自動ピアノや蓄音器は小學校になくはならない道具であると思はれる。自覺ある教育者の學校には之等の設備がちゃんとしてあるのである。

かく言へばとて只蓄音器で以て聞かせただけでは何もならない。例へばシナタナリミニエツトなりのピアノ演奏のレコードを聞かせた時には、其の曲について十分子供に感興インテレストを引く様に説明してやる事が必要なのである。例へばその曲はどう言ふ人の作つたものだとか、その人の傳記はこうだとか、此の曲は其の作曲家の如何なる感情を現はして居るとか、此の曲の良い所は此處だとか、悲しい所だとか面白い快活な所だとか言ふ様な説明をする必要がある。之は聴く事の場合のみではなくて子供が歌ふ時も、子供に只面白さうに歌はせると言ふだけではだめである。その曲のどの點が悲しいのだとか面白いのだとか、その曲の作者はどんな人かとか、此の歌はどんな感じの歌かとか、又ナボリの民謡であればナポリとはどんな所かとか言つた様な説明は是非必要な事なのである。

曲の説明として例をあげやうならば、假令ば此處にデイ・カプア作のオ・ソレ・ミオのレコードがあるとすれば、此の曲は伊太利ナボリの民謡として、伊太利の強い薫りを織り込んだ。伊太利を代表する歌であり、伊太利を愛する人の忘れる事の出来ない名曲であると言ふ事や、デイ・カプアと言ふ人は伊太利の澤山の民謡を書いた人であると言ふ様な事より、更に此の歌に依て十分に伊太利氣分を養ふてやる必要があるのである。マンドリーヌの歌が静に流れて *Che bel-la cosa...* と出て来る所あたりナボリの風景が目の前に浮いて出て来る様に説明してやるのである。

此處に *Serenade* の曲がレコードにあるとする。此のセレナードと言ふ曲はどんな場合の曲であるのか、月明かな夏の夕邊、涼しい風にふかれながら、フリュートやハーブの妙なる歌に、美音が流れて出るのである。子守歌のやうな氣分のあるソングであり、熱愛のあるメロディーである。と言ふ様な點を説明すべからである。

従來の唱歌教授は主として「歌はせる唱歌教授」として研究されたのであつた。し

かしながら唱歌教授の目的は歌はせる事に依てのみ完成するものではなく、聴く事に依ても或る程度までは涵養する事が出来るものであると言ふ事を知らなければならぬ。即ち「唱歌させざる唱歌教授」の研究をしなければならぬ。歌はざる唱歌教授とは聴く事の教育である。極論するならば小學校六年間に於て少しも歌はさなくとも、聴く事ばかりで以てても唱歌の目的を達する事は出来るとおもはれる。

此點から考へるならば、従來の唱歌教授には聴く事の教育、換言すれば唱歌を觀賞する事が至つて軽く見られて居た。否殆んど行はれて居らなかつたと言ふ事が出来る。唱歌する事は自分の口で歌つてしまへば歌ふ順序にその藝術的な作品は消えてゆく。繪畫であればその作品が後に残るが、音樂は消えて行つてしまふ。そこで同じ作品を何回も聴いて之を觀賞する時間が至つて少ない。尙又自分が主觀的に歌つた歌曲を客觀的に聴く事が出来ない。之を客觀的に觀賞する事は蓄音器より他に方法はない。活動寫眞と蓄音器は新時代の教育上、最も重要な學校の設備であり教具である。

蓄音器は前にも述べた通りに狭い教室の中に居りながら内外大家の大藝術に接する事が出来る。居ながらにして洋行も出来れば音楽會へゆく事も出来るのである。米國に於ては蓄音器と活動寫眞とは學校になくはならないものとされて居る相であるが、まことにものともな事である。或る特種な學校では事務員が二三人居るだけで常に蓄音器で以て教育をして居ると言ふ事であるが、そんな事は別として、教授者のなし得ない事は蓄音器でやり得るのである。

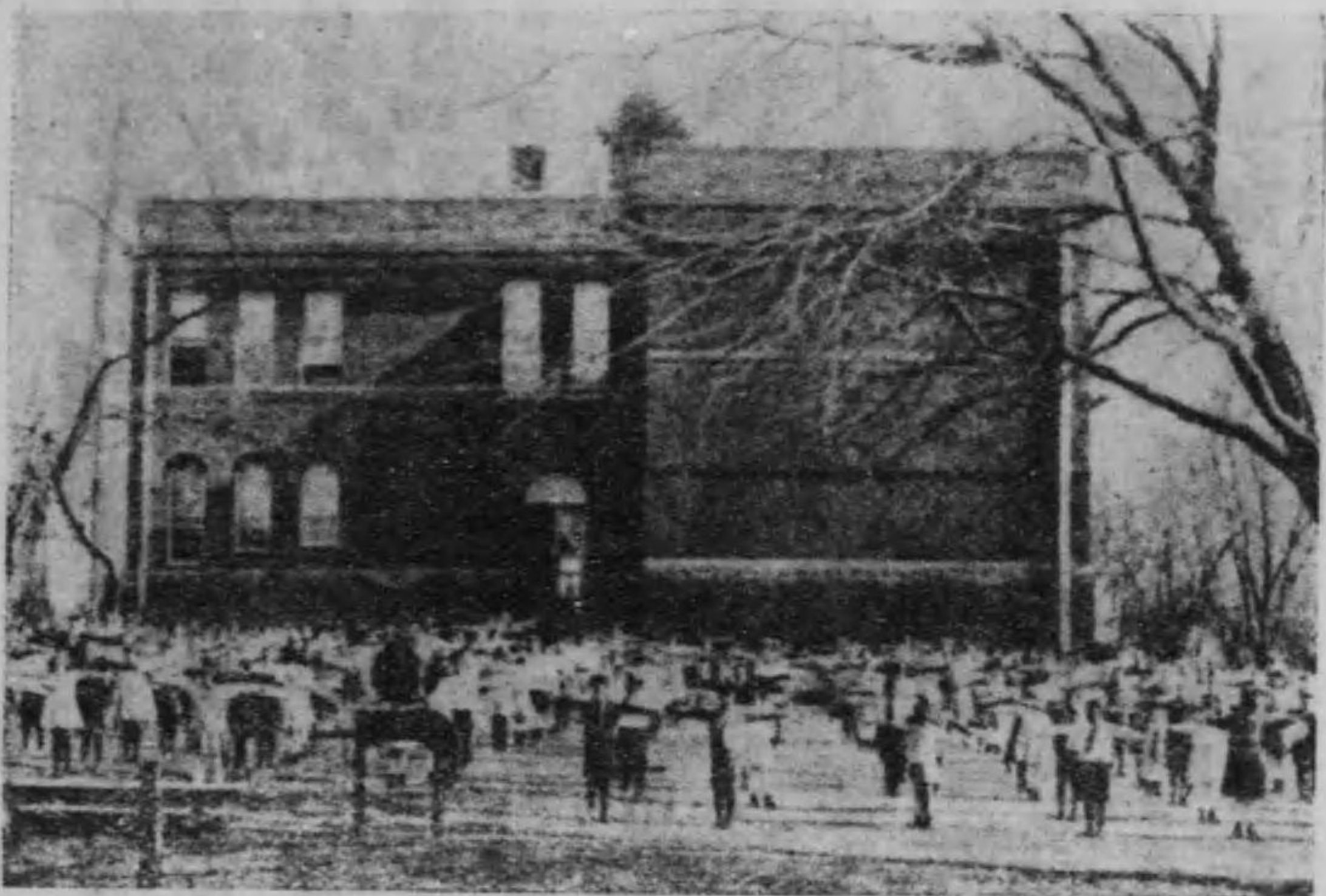
蓄音器の應用は頗る廣い。そして大變に教育的に價値がある。學校によると各教室に立派なテーブルを置いて見たり、高價な三角棚を作つて見たり、舶來の時計を各教室につるして見たり、それも皆悪い事ではなく、出来るならばかゝる便利な設備は良い事ではあるが、私はそれよりも先づ最初に蓄音器の設備が必要だと思ふのである。兒童は教室の中で種々な學科を教へられて彼等の精神は疲勞するのである。その時に直ちに蓄音器を持ち出して、彼等の疲勞を回復せざる様な教科レコードを聴かせるな



(From Catalogue of Victor Records.)

らば、彼等は實に餘ほどの疲勞を數分の間にして回復するのである。蓄音器は實に兒童の教室には必らず設けおくべきものである。

蓄音器は如上教授上必要缺くべからざるのみならず、體操や舞踏の際にも又必要なのである。澤山の兒童に或るリズム的な體操や舞踏をやらせる時には是非蓄音器が必要なのである。従來の學校の舞踏などを見ると、先生は一生懸命にピアノやオルガンのキーばかりを見つめて、おぼつかなき手つきで弹奏して居り、生徒は勝手氣ままに



(From Catalogue of Victor Records.)

踊つて居ると言ふ始末であるが、之を蓄音器で以てやる時には、如何に下手な先生も、自由にマーチや舞踏曲を奏する事が出来るのであり、先生がおぼつかなき手つきよりも、どれ程テンポや音が正確であるか知れない。殊に野外に於て、又は外の體操場などにてやる時は、オルガンやピアノを持ち出すにしては大變に重いし、蓄音器であれば直ちに持ち出す事が出来るのである。但し屋外の場合は屋外蓄音器でなければいけない。喇叭のついたのがよ

蓄音器には種々あるが、從來日本に於て用ひられて居た様な十圓や二十圓位な安價なものでは到底教育的の價値をおさめる事は不可能である。何と言つても二三百圓を出さなければいけない。殊に屋外の演奏には強聲を必要とするから喇叭が必要である。二三百圓も出せば實際の肉聲と少しもちがはない良いのがある。カルソのレコードでもカルソの實際の肉聲を聞く事が出来る。會社によつて種々ちがつたものがある。がゼイクター Victor 會社のものは比較的他の會社のものより教育的に良いものが澤山に出て居る様である。其他、コロンビヤレコード會社、アメリカエマソン會社、ファンノーター會社、オリエント會社、日英樂社、東京蓄音器會社、日本蓄音器會社などのレコードには種々良 Educational records があるからそれ等會社のカタログを取りよせて良かり相なのを選択すべきである。只に Educational records に限る必要はない。立派な藝術的作品をどしどしと提供して聞かせる事は教育上まこと

に良い事である。

或る人は言ふかも知れない。大藝術家の作品やレコードはあまり子供と縁が遠い。その様な子供には理解の出来ない様なものを聞かせる必要はないと。但し私は左様はおもはない。立派な藝術品をそれそのままに教授しやうと言ふのではない。觀賞せしめよと言ふのである。子供は子供として觀賞し、大藝術品に接する事は至つて教育上良い事なのである。小さな瀑布を見るよりも華嚴の瀧かナイヤガラの大瀑布を見せてやり度い。小さな池よりも太平洋の廣大に接せしめ度い。おぼつかなき先生のオルガンよりもバデレフウスキのピアノソロに接せしめ度い。藝術的の價値があるのか無いのか疑問の様な歌曲よりも、ちゃんと完成した大宗教に接せしめなければいけないのである。

一例を擧げるならば、高等小學の讀本であつたか、アレキサンダー・ブーシエーの話やペーリトーフエンのムーンライトのソナタの話などが出て居ると言ふ事を小學校の

先生に聞いたが、その様な時には直ちにピアノによつてソナタを弾じて「ペーリトーフエンのムーンライトのソナタと言ふのはかくかくのものである」などと、直ちに子供に聞かせる事の出来る様な教育者が何人あらうか。弾いて聞かせるどころではない。ムーンライトのソナタを歌つて聞かせてくれなどと言ふ教育者もあるのであり、又はムーンライトのソナタが僅に二三分の間にちやんと完成して出来上つたものゝ様に思つて居る人もある。ムーンライトのペーリトーフエンかペーリトーフエンのムーンライトかわからぬ位に有名な彼の力作も三段や四段形式の小學校の唱歌の様にボーカルで歌へるものだなど、飛んでもない事を思つて居る教育者もあるのであるから、又左様な教育者も大都のものなかの小學校に堂々と教育の任にあるのだから思つたより先生の頭は貧弱なものである。それは兎に角としてかゝる場合には直ちに蓄音器にねぢをかければ直ちにペーリトーフエンの大藝術を直接目の前に觀賞する事が出来るのである。



觀賞教育の必要は唯に音樂のみではない。泰西の大藝術家の繪畫も教育的に必要な事である。尙又彫刻なども大に觀賞せしめ度い。一般に觀賞は藝術教育上最も大切な事である。被教育者は如斯にして徳性の涵養に資し、人格の建築をするものなのである。

小學校では時々蓄音器の演奏會（レコード音樂會）を開催するのが良い。尙又教員自ら種々の演奏をする事は、（出来るならば全校の先生が皆兒童の前で各々自分の好む處を發表する事は）子供の教育上まことに良い事である。尙又兒童の音樂會なども良い事であるから一ヶ月に一回位は大に楽しい時間を作つてやり度いものである。

泰西の名曲を蓄音器で以て觀賞せしめる事は、ソノ・ゾログラムを大に考へて置く必要がある。古い處から追々と新しい樂風に接せしめる様な歴史的形式を取る事も良いし、又イタリアン・スクールを一まとめとしてやり、次にジャーマン・スクールを一まとめとしてやり、次にフランス・スクールを又一まとめとして演奏すると言ふ様

な事も良い。尙又小さく切つてベートーフェンの作品ばかりとかシューベルトばかりとかリストの藝術ばかりとかに區分してやる事もよい。スクールは各々國によつて皆その赴を異にして居る。例へば伊太利のスクールは概して歌謠的であり、流暢で温雅な趣味を有して居り、歌劇は主として Opera buffa であり専ら聲音上の技巧を重く見て居る。獨逸のスクールは伊太利の樂風を受け繼いで居りながら、よく獨逸の國民性に同化し、頗る壯重である。歌劇にしてもロマンチックなもの (Romantic opera) が多い。つまり伊太利のに比して一般に嚴肅であると言ひ得られる。尙又獨風のスクールを同化して獨特のスクールを作つたものはロシアである。ロシアは彼國特有の樂器バラライカを以て見る如く、頗る壯重大陸的のスクールを所有して居るのである。其他アメリカ、イギリス、フランス等各々其國特有のスクールがあるのであるから、之を如何に觀賞せしむべきかは大に教育者の考察を要する。先づイタリアンスクールを先にして次第に他の國々のものをまとめてゆく方法を取る事もよからうと思

よ。

尙又獨逸のスタイルを歴史的に觀賞せしめるのには各々の時代を通じて古代より順次に演奏する事がよし。するとスタイルの進化の様がよくわかると思はれる。例へば Bach, Händel, Gluck, Haydn, Mozart, Beethoven, Weber, Meyerbeer, Schubert, Mendelssohn, Schumann, Liszt, Wagner, Brahms, Strauss, と言つた風な時代的の配列をするが良しし、伊太利スタイルで言ふならば、Rossini, Bellini, Verdi, Cagnoni, Leoncavallo, Mascagni, Giordano, などと言つた風な配列がよし。

尙更に小さくして一の藝術家の作品ばかりを觀賞せしめる事もよし。例へばベートーヴェンの作品のみ、とかシェーンベルグのもののみとか言ふ風に。

Symphonies, Adagio, Chorus of Dervishes, Cottage Maid, Egmont Overture, Ehre Gottes, Fidelio, Funeral March, Heavens Resound, duyn Green, Leonore, Mennett, Minuet, Moonlight Sonata, Quartet in C Major, Souvenir de Beethoven, Turkish

March, Unglückliche, など。

更に面白い方法としてレコードを聴かせるのには、藝術家本人が直接演出したものを直ちにレコードに採つた様なものである。それはベートーヴェンの作品を他の人々が演出したものよりもより直接大藝術家の精神に接觸する事が出来て難有いのである。例へばカルーソのレコードの如きパデレウスキーのレコードの如きである。カルーソなどのレコードは随分に澤山に出来て居るし、パデレウスキーのも多い。今二三あげて見ると。

Cracovienne Fantastique, Etude in G Flat Major, Minuet in G, Nocturne in F Major, Nocturne in F Sharp, Polonaise Militaire, Waltz in C Sharp Minor, (Pianist Paderewski Ignace Jan Records)

私は先年東京高等師範で開催された全國唱歌擔任教員協議會の席で埼玉縣師範學校の先生の石川正一氏と言ふ方が發表された「蓄音器を用ひての鑑賞教授」と言ふ話を

「教育研究」臨時増刊で拜見した。その選擇されたレコードは同誌に登載されてあるが、私も同感な所が多い。尚其の選擇された目録は次の通りである。

- God Sove the King (英國々歌).....五年
- The Marseillaiso (佛國々歌).....
- Star spangled Sonnet .....
- Home sweet home.....五六年
- My old Kentucky home.....
- 椿姫第三幕の一節.....六年高等
- ソアウスト第三幕ジュエドランソング.....
- Auld lang syne .....四五年
- Old folks at home.....
- Hail columbia .....

(以上聲樂)

- ピアノ.....
- ショパン——ノクターン.....五年
- ショパン——Valse brillante .....
- グアイオリン.....
- ベートーエント調ミニユエツト.....五六年
- サラサート——カブリリスバスク.....
- The Bee シュトベルト).....
- ヂツテルドルフ——ト調アンダント.....
- グアイオリンセロ.....
- ルビンスタイン——ヘ調のメロデー.....五六年
- サンサーン——白鳥.....

管樂合奏

- ワグネル——リエンヂオーバチユアム……………五六年
- ベートルマン——ムンライヒソナタ……………五六年高等
- ベートルマン——ソナタ……………五六年高等
- オーグストラ
- メンデルスゾーン——モツト、サンマナイト、ボリ
- ーム、オーバチユアム、……………高等及尋六年
- バイドゥン——サンブライズソフオニム、……………
- ベートルマン——ソナタ……………
- ロシニー——カイリアムナルオムバチユアム……………
- モツアルト——ジュピターソフオニム……………

(以上器樂)

太平樂、越天樂、朗詠、陵王、

(以上和曲)

以上は石川氏の発表にかゝるものであるが、私も同感である。尙幼學年級に於てももつと澤山なものを選択してほしいと思ふ。尙又各學年についても尙々澤山な教科レコードを選択すべきであると思ふ。右は實際家の選擇した一例にすぎないが、私は澤山な會社からそれぞれ立派なレコードが澤山に發行されて居る事であるから、ソレ等の内に於てエデュケーションナルレコードを選択して少くとも一學校に二三百枚位は設備して置いてほしいと思ふ。無論その内には自分の學校の生徒の歌つたものも澤山に作つて置く事である。

次に聽かせる事の教育としては各小學校でそれぞれ兒童の樂音會を開いたり、二三校聯合して開催したり、又は大都市であれば公會堂の様な所へ集めて開催する事もよい。其際には必ず教員の演出もある方がよい。しかしかゝる場合には受持教員や學

校の競争になつて兒童に無理な歌曲を強ふる様な事のない様にしてもらいたい。又プログラムとの組合せ等も大に考へなければならぬ。

要之耳の教育としては大に聴かせる事が必要であり、聴かせるには聴かせる設備をしてかゝらなければならぬのであるから、それには音楽會や學藝會の様な事はもとより、教員の演奏會（生徒に聞かせる爲の）又は一番便利にして有功なのは蓄音器である。要するに従來はあまりに子供に歌はせる事にのみ重きを置きすぎたから、音楽を客觀的に聴く事が出来て居らなかつたのである。今や内外共に音楽が非常な進歩をして來たのであり、外國の名曲や大家もドンドン日本に來る事であるから、大に彼等兒童を導いて、歐米先進國に後れざらしめなければいけない。而して其の最も遜色あるものは音楽である。教育者の責は實に重大なのである。ウツカリして居る場合ではないのである。大に研究し發表し、歐米のそれを凌がなければならぬ。國家の盛衰は一に教育の力にあるのである。

### 第三 子供の自由作曲と作謠

教育は創造の事業である。其處で如何にすれば最も良く彼等被教育者を導き、創造の事業として恥ぢない様に教養する事が出来るかと言ふ問題は、等しく教育者の頭を悩し、或は研究に實行に種々の教育説として提唱されたのである。而して最近最も新しき方法として提唱されたものが彼の自由教育説とそれから引いて自由畫問題である。自由畫の問題については私は本書別編、目の教育の中に書いて置いたから此處には略するが、自由教育なるものが一般に教育者の頭へ新しき光彩をなげかけた事は争はれまい。而して所謂自由教育の意義などが各々其の解義を人によりて異にする爲に、眞に果して如何なるものが自由教育の本體なりやの意見はよく雜誌の論壇を賑しつゝある次第であり、尙又自由教育の實行者と言ふ人々が各々獨特の方法を以て研究して居るのである。而して其の所謂自由教育の美名にかくれて随分に非教育な事も多々行

はれて居る事を認めんわけにはゆくまい。

自由教育、まことに新しく美しき名ではないか。自由畫、まことに新しい教育説と言ふべきである。吾人はかかる新しき教育説が我帝國の教育界に提唱されるに先ちて、少しもかゝる思想を有して居らなかつたであらうか。實際教育家の自覺せる人々の間には、自由教育や自由畫と名のつかない迄も、かゝる思想は認め着々と進歩をはかつて居た事は事實である。尙又自由教育の名を出さないものゝ内にも、從來より眞に眞面目なる研究のもとに實行されて居た自由教育の内容を持つたものも多々あるのであるが、要するに自由教育や自由畫の提唱は假令現在では尙實際的問題として取り殘された幾多の問題はあるにしても、確に教育上の一大進歩と言はざるを得ないし、又現在の自由教育や自由畫論者が假令現在に於ての實行に失敗したからとて、「自由」なる兒童個性の表エキスプレッション現は永く教育上の重大問題たる事を認めなければならぬ。

私は嘗て私の前著に於て「自由畫の問題でなくて自由教育の問題である。總ての教

科は自由畫教育論者の提唱する如き兒童個性の表現と創造にある」事を説いた事がある。唯しかしながら之には解釋に種々ある。而してかゝる教育説の眞の實行は眞の教育者に於てなし得らるゝ。若し誤らば返つて行はざるに優るものである。世には教育の美名に陰れて官僚の奴隸たる教育者も多々ある事であり、或は或る將來の仕事の足場として當分の俸級を目當に教職にある人もあるから、自由畫や自由教育はかゝる人々に取つては遂に放任になり易いのである。自由と放任とは全然別物である。自由の美名に陰れて放任する事の如何に害ありとも益なきものなるかを考へなければならぬ。

唯しかしながら兎に角自由教育と言ふ事が一般の教育界の一思想として根強く教育者の頭に把持された事は確に一進歩と言はざるを得ない。吾人は大に自由教育の理想に向つて努力しなければならぬ。而して又是非の意見はあり提唱する處に幾分の誤りはあつたにしても、かくまで聲を大にして我眠れる教育界に一針を興へて大に刺戟

した事は、その提唱者に感謝すべきである。自由教育は由來自由畫の提唱に依て起つたものである。自由畫の聲まことに盛ならずとして之に唱和したものであり、自由畫より頗る範圍が広いものであるが、その原因は矢張り自由畫の提唱にありと認めなければなるまい。吾人は山本鼎氏の大音聲を多とすべきものであると信ずる。

私は今此處に自由教育の一般や自由畫の事について述べる者ではない。自由教育、自由畫より引いて兒童の自由作品問題について一言して置き度いと思ふ者である。

自由畫の問題は要するに藝術教育としての新提唱である。豈自由畫のみならむや。私は自由唱歌と言ふ事に重大なる意義を認むる事も自由教育の一部として決して輕んじてはならない事であると信ずる。圖畫が藝術教育であるならば、音樂とても堂々たる藝術教科ではないか。而して藝術教育は兒童の個性のエキスプレッションに存する以上、自由唱歌も又新しき提唱として重大なる意義ある教育としなければならぬ。私は私以前にも自由なる唱歌と言ふまでも、かゝる内容を持てる意見を二三唱歌教育

者から聞いた事がある。而して尙一般に十分なる理解なきは何故であらうか、はた又あまり聲を大にして説く者なきは何が故であるか。私は私の説明を述べるに先ちて、自由唱歌の反對者に報いなければならぬ。少し惡口が入るかも知れないが之は私の病氣である。雜誌教育研究に、

「從來の唱歌教材は大人が大人の考に依て作製したものであるから兒童の心情に適應する者が尠い。兒童自身の作品こそ眞に自己表現の生きたものである。これだければ彼の兒童衷心からの感動を惹起したり眞に兒童に適切なるものではない。斯る作品を採つて以て唱歌教材となすべきである」と主張されるのはまだしも、之を實際に應用して兒童作のレコードまで作つて居られる方もある。これも一應御尤な點がある。併しながら是等兒童の作品が所謂兒童唱歌の生きた無二の適材であると言ふ見方に反對し、随つて此の種の材料を兒童に課する事を否定するものである。所謂音樂の天才著モツアルトやワグナーの様な兒童があるならばいざ知らず。我國の

普通兒の作品に果して如何なる作歌作曲が出来やうぞ。我が國の現状では専門家の音樂家に於てすら碌なもの出来ない場合ではないか。況して音樂的素養の尠い低級な兒童のものした歌曲に果して如何程の價值があるであらうか。之は申すまでもない明白な事である。私どもは幾ら兒童の眞の表現であるとは言へ無價値無趣味な材料を課して、兒童の音樂的趣味を養成しやうと言ふ勇氣を持たないものである。吾等は左様な取扱者の大膽なのに寧ろ驚く外はないのである。要之兒童の作品を鑑賞し之を補導してゆくと云ふ程度に於て此の問題は是認される筈のものである。云々。(大正十一年一月號)

之が先づ反對者の意見の大要である。之に依つても見られる通り右の説には、

- 一、兒童は作曲なんかは出来ないものである。
- 二、兒童の作曲は無價値である。
- 三、かゝる無價値な作品を以て教育する事は危険である。

四、かゝる教育者は實に無自覺である。(と言ふ事が内面に暗示されてある)

と言ふ様な考が流れて居る。其他此の意見には頗る自尊心の強い自惚的な思想も流れて居る。それは兎に角として右の論述は大正十一年一月の高等師範附屬の機關雜誌「教育研究」誌上に登載された同校の唱歌研究部の意見であるから、當の責任者主張者の何者であるかはわからないのである。只研究部の意見として發表されたものである。右に次で尙次の如くある。

兒童自由作曲歌問題——單なる音の配合、即ち音樂の純形式から作曲せしめ若し相當に出來上つたとすればそれに歌を當倣めさせる方法と、歌詞を與へてそれに作曲を付けさせるものとの兩方面がある。其の何れに依るとしてもこれは前項にも申した通りの事情であつて到底成功を期する譯には行かないと信ずる。どうしても一種の遊戯にすぎないものと思ふ。元來創作と言ふ事は幾多の經驗、多大の修養あるものでないと之をよくなし得ないものである。中にも音樂上の作曲と申すものに至つ



ては至難中の難事であつて到底我が國兒童の手を附け得られるものでない。それ故歐洲各國の小學校に於ても斯かる作業を課して居る所はない。之は頗る危険な意味の伴つて居る仕事である。

先づ大體は右の如くである。右は大正十年度に於て同校の主催のもとに全國唱歌教員研究會を開かれたその主要問題と言ふよりも其の一部について同校研究部の名に於て反對したものである。何人か右の意見を「反對説でない」と言ひ得よう。私は直接當面の反對者であると認むるに躊躇しない者である。私は私の意見を述べむとするには失づ右の反對説に對して批判をせなければならぬものである。

先づ右の反對説については如何なる人の説を反對したものであるかは研究會の報告（教育研究の増刊）を読んで見れば大體わかるのである。而して又同研究會に於て發表した人々が如何に述べ如何に答へたかは私は知らない。但研究發表をした人々の内には随分に幼稚な考方の人もあり、又他の教育音楽家の説を寸分ちがはずに堂々と自

己の研究なりとして發表して居る者もある。例へば同増刊三十頁の音域圖表の如きは山本壽氏の「唱歌教授の理論及實際」の中にあるものを其のまゝ寸分ちがはず持ち出し、山本氏が同著述の中に於て、「大正五年七月余が實際兒童に就きて調査し其の平均をとりて大體の標準を示したるもの。」とて表示せられたるものを、寸分異なる所なく提出して「余が兒童につきて調べたるもの」などと説明して居るに至つては實に滑稽至極と言はざるを得ない。尙山本氏が誤りを其のまゝ傳へてバートルなど稱して居るのを見ても、如何に幼稚なる教員が同校研究會に出席して居るかゞわかると思ふ。（バートル氏はバールト氏の誤りである。之は山本氏の右著述中にも誤つてバートル氏とあるが、Barthのスペルであるからバートル氏と發音しなければならぬ。）山本氏の右著述は實に唱歌教育界への好著であり、私も良參考書として啓發せられた處の多大であつた事を認むる者である。しかも此の我國唱歌教授法の名著をそのまゝ製用して、山本氏にかはつて「余が研究」などと稱して居るのを見ても、如何に貧弱な

る研究が堂々と發表されて居るかゝわかると思ふ。

却説、私は先の「教育研究」誌上の自由唱歌に對する高師附屬の反對説に對して私の考を述べ度いと思ふ。而して右批評を述べる事が又一面私の考察と意見を説明する事となるのである。要之前掲引用文を一々考察して見たいと思ふ。

研究部の反對説は先づ自由唱歌の提唱者の説を擧げて居る。その提唱者の説として擧げられたものは眞に如斯説をなしたか否かはわからないが、要するに自由唱歌とは申さずとも内容に於てかゝる事を暗示して居るから、私の提唱する自由唱歌科とよく似たものである事は事實である。却説反對者は「現今我國の音樂専門家に於てすら碌なものゝ出來ない場合に於て、低級な兒童のものした歌曲に果して如何程の價値があるらうか。」と述べて居る。尙又「所謂音樂の天才者モツアルトやワグナーの様な兒童があるならばいざ知らず、我國の普通兒の作品に、果して如何なる作歌曲が出來ようぞ。」と痛棒を食はせて居る。私は思ふにかゝる反對説は眞に反對したものでなくて、

高等師範と言ふ大きな看板の陰にかくれて日本の教育界を侮辱したものであると認めざるを得ない。よく考へても見よ。所謂普通兒の作品にラファエロやミレィやシャパンヌやゴッホやゴッギヤンの様な天才の作品と比較に出来る様な大作が出來やうか。それでも圖畫科を課す事は果して何の爲ぞラファエロやミレィの如き大作が兒童には到底出來ないからと言つて圖畫科を廢止したらどうであらう。モツアルトやワグナーの様な天才は教育の力では出來ないかも知れない。我國普通兒の作品に専門家や又は天才と同じ様な大作曲大作歌の出来る筈のない事は賢明なる高師の先生も之を知る。(私の先生と稱する事は「先生と言はるゝ程の馬鹿でなし。」と言ふ意味ではない事を附加して置かう)然らばと言ひて綴方に於ては到底兒童がゲーテやダンテやワイルドや其他幾多の天才の作品の如き大文章は出來ないから綴方を廢し、習字に於ては普通兒は到底支那の名筆の様な文字は書けないからと言つて習字を廢し、ラファエロやミレィの如き大作は出來ないと言つて圖畫科を廢したらどうであらうか。我國の普通兒――

我國のみならず各國の——に於て教養して果して如何程の價值ある綴方や圖畫や作曲が出来てあらうか。論者の論法より論ずる時は綴方や圖畫の如きは教育的の價值を失ふ事になる。かゝる無謀なる教育説が又とあらうか。流石に高等師範の先生でなければ言へない論説であると言はねばならない。吾人はかゝる論者の意見をこそ「その大膽なるに寧ろ驚く外はない」のである。吾人はかゝる論者の如き意見をこそ「大膽に發表する勇氣を持たない者」である。

第一に論者は普通兒の作品を無價值とし無趣味と痛棒を加へたれど、其の無價值と言ふ事は天才の作や専門作曲家の作品に比して無價值なるか又は教育として無價值なるかを明示して居らないが、おそらく天才の作曲に比較したものである様に思はれる。吾人は天才の作品に比して兒童のそれが比較にならない事は認むるに躊躇しない者であるが、之を教育上無價值無趣味と斷定を下す勇氣を持たない者である。かゝれば綴方圖畫等の無價值な兒童の作品は教育上價值なしとの結論に到達すべきにあらず

や。私は堂々と高等師範の附屬のしかも研究部に於て天下に發表する所論のかく、貧弱なるにむしろ驚かされた者である。論者の如く、作曲はたしかに難事の中の難事には違ひない。さすればとて綴方や圖畫は之又難事の中の難事にあらずして何ぞ。論者は歐米各國の小學校に於て未だかゝる事をなせしを知らずとの事であるが、歐米各國の小學校に於てかゝる作業を課して居る事がないからと言ふ意見で我國に課す事が出来ない憲法が何處にあるか。由來かゝる貧弱な反對説は「藝術」なるもの、原始的起原乃至は教育上に於ける兒童の藝術的作品の教育的價值を知らない所より起りし至つて無暴なる言論である。敢て問はむ高師附屬の唱歌研究部に一人の音樂の天才者ありや。兒童の作品はそれが歌曲のみならず、圖畫や綴方に於ても決して天才の作品と比較する事は出来ない。又教育者も天才の作品の如きを目標として教授し指導しては居らない。彼等兒童の作品は完全なる藝術品と言ふ事は無論出来ない。しかしながら天才の作品と比較が出来ない位に下手な藝術品ではあるが、そこに子供の個性を表現して

居り、彼等の言はむと欲する處をかゝる幼稚なる藝術作品に於て發表するのである。野蠻未開の民族が或は石に或は材木に種々なる手工品を作つて自分なるものを表現すると何ぞえらび。而してかゝる作品はそれが作歌作曲はもとより、圖畫手工綴方に至るまで思想の發表でなくて何であるか。而して又かゝる幼稚なる思想を追々と高さ藝術的宗教的思想に導くのはそれが教育の仕事ではないか。論者の如くに最初より兒童の作品が天才と比較出来る様なものが出来れば、教育の必要はない事になり、天下の學校は皆廢して然るべきものである。

先づ一例を以て説明せむに、幼稚なる子供が時々紙の上や土の上や又は白い壁の上などに書く繪畫を見よ。指導觀念に依て一本の線がそれからそれへと追々に發展してゆくのに氣がつく事であらう。先づ一本の太き線を何心なく引く。次に何心なく引いた一本の線が木の幹に似て居ると考へる時には左右に二本の枝が出る。又最初の何心なく引いた一本の線が日の丸の國旗の柄と言ふ様な感じが起つた時には木としないで

日の丸の國旗としてしまふ。若し木が出来たと假定すると木には鳥が居る事を聯想する。そこで鳥の形をか。如斯にして遂に觀念聯合によつて次第に次から次へと聯想を發表してゆく。如斯は眞に偽らない子供の思想の表現であり、それを立派に指導する事が教育の仕事の大部分を占めるものなのである。つまり子供は一本の太い線から次第に觀念の指導に依り言葉巧みに言ひ得ざる所を繪畫として發表するのである。此の兒童の思想の表現なるものを天才の大作と比較してそれ以上の價值ありなど言ふ馬鹿者があらうか。所謂「價值」は眞の専門的藝術としての價值にあらずして、教育としての價值なるものである。

自由作曲も其の通りである。子供の幼稚な頭に一つのモチーフの様な旋律が起る。例へば鍛冶屋の鎚の音の如き擬音モチーフが起る。すると直ちに鍛冶屋を思ひ起す。之と反對に鍛冶屋と言ふ觀念から鎚の音を聯想する。そして擬音モチーフとして子供の頭の中に一種のメロデューの一部が出来る。次に其のモチーフが再び繰り返され

る。三度も繰り返される時がある。次に子供の指導觀念に依て鞆の音を聯想する。そして再び擬音モチーフが出来る。即ち最初には槌のトンテンカンと言ふ音の高低に依てモチーフが出来る。その、モチーフが二回位反復される。次に鞆のモチーフが出来る。フーフーフーとかスースースーとかの音が一つの擬音モチーフを子供の頭に作つて、鐘のトンテンカンのモチーフに鞆のフーフーフーフーと言ふモチーフが變化を與へる。此處に立派な擬音モチーフの反復された作曲が出来たのである。即ち此の指導觀念による兒童の作品を表示すれば、

一、第一樂句——起句

鍛冶屋の鐘の音のトンテンカンより聯想するかトンテンカンの音より鍛冶屋を聯想する。而してトンテンカンと言ふ音の高低強弱リズムとメロディーが出来る。擬音モチーフの樂想の起句である。

二、第二樂句——承句

次に第一樂句の樂想たるトンテンカンの擬音モチーフを繼承して、再び模倣して反復する。此處に模倣の擬音モチーフに依て第二の承句が完成する。

三、第三樂句——轉句

此の樂句は一番に變化に富んだ樂句である。樂想が一轉するのであるが子供は巧みなものである。

鐘の音より得た擬音モチーフに依て第一樂句が出来、次にそれを模倣した同様の鐘の音の擬音モチーフが出来たが、さてあまり二樂章も同質のモチーフの連続である處から、一寸前のメロディーに倦怠して来る。そこで指導觀念は子供の精神を鞆に聯想せしめて来る事になると、此處にも立派なモチーフが発見出来る。そこで喜んで此の擬音モチーフを何心なく用ひる。かくして立派な轉句が完成する。

四、第四樂句——結句

そこで籥の音より得たメロデーは曲に大變な變化を與へた。だから最初のメロデーと比較して見度くなる。つまり此の樂句に於て完成しやうとの爲に今一度思ひ返して見る氣になつて此度に第一樂句が少し變化して模倣されて來る。如斯にして兒童の指導觀念は此處に一と先づ終りを告げ、立派なモチーフより連想した子供の作曲が出来る。

之は一例にすぎない。だがしかし私はかゝる事から考へて見ても私の憶測ではあるが、原始的にメロデーの起原は擬音モチーフより來て發達したものであるまいか。ソナタやシンフォニーやリードなど言ふ複雑な整然な曲も、其の最初原始を尋ねて見る時には、子供が一番に發見する擬音モチーフの進歩發展したものであるまいか。之は音樂のメロデーの起原論ではあるが私の憶測を附加したまでである。よく歌詞に花の散るチラチラやヒラヒラ、鎗のトンテンカン、汽車の音ボボボ、鶯のケキヨケキヨ、雀のチユンチユン、など言ふのがある。之等は無論歌詞ではあるけれど

も、しかし一方から考察すると曲とも歌詞ともわからないものである。之が最も原始的な曲であると信ずる。

却説話は基にもどる。子供は或は級によつて本譜に書き得ないかも知れない。又略譜にも書き得ないかも知れない。書き表し得ない時には歌はせて教員が書いてやればよい。略譜を縦に書くかも知れない。その時には上手に適當な指導をしてやればよい。又終止形になる所がならないかも知れない。しかし之も致し方がないとして訂正してやるのである。何人かかゝる作曲をモツアルトやワグナーの大作に比較する者があらうか。比較して其の價値を藝術的に論じやうとする者があるならば、それは東京高等師範の唱歌研究部に居る人々のみである。

次に兒童の作品をレコードに入れて彼等に聞かせる事についての論であるが、之はまことに良い事であると信ずる。何故かなれば眞の藝術は如斯自分で自分の作品を批判し觀賞する事に於て進歩する。假令その作品がまづいものであつても、歌つて居る

最中には一寸氣が附かない。之を蓄音器に移して觀賞すると言ふ事は實に教育上忘れてはならない良い方案であると信ずる。殊に自分が作つた作品をレコードに依て觀賞する事に於ては一段のインテレストを彼等兒童に與へる。此處に子供の努力と發展を無意識の内に暗示して居る事になり、かくして教育の進歩がはかどる事となるのである。何人か如斯良教育方案に反對する者があらうか。若し反對する者があるならば、東京高等師範の唱歌研究部に居らるる先生達である。論者は同所に「唯單に子供が好むとか喜ぶとかの好奇心によつてのみ教育する事は出來ない。」と言ふて居られるが、實に好奇心は人間の本能であつて、總ての科<sup>ガイシエンメント</sup>學は皆人間の好奇心の所産でなくて何であらう。而して彼等幼稚なる兒童の作曲の如きも、子供の好奇心と感興とを引いて如何に教育的の（論者の加く藝術的のではない）價值があらはるるかは火を見るより明な事である。

私は私の意見として述べたい幾多の問題を所有して居るのであるが、以上批評しつ

つ自分の意見の一部は確に述べたのである。而して私が望む處は、自由作曲と作歌である。教育者の努力に依つて無邪氣な作曲家や作歌者が澤山に出て来てくれる事は教育上まことに望まじき事であり、特に藝術的インテレストを興ふる上からも是非必要な事なのである。此處に兒童の自由作曲と作歌を提唱し、教育者の努力を希望する者である。

# 第九章 節奏 旋律 和聲

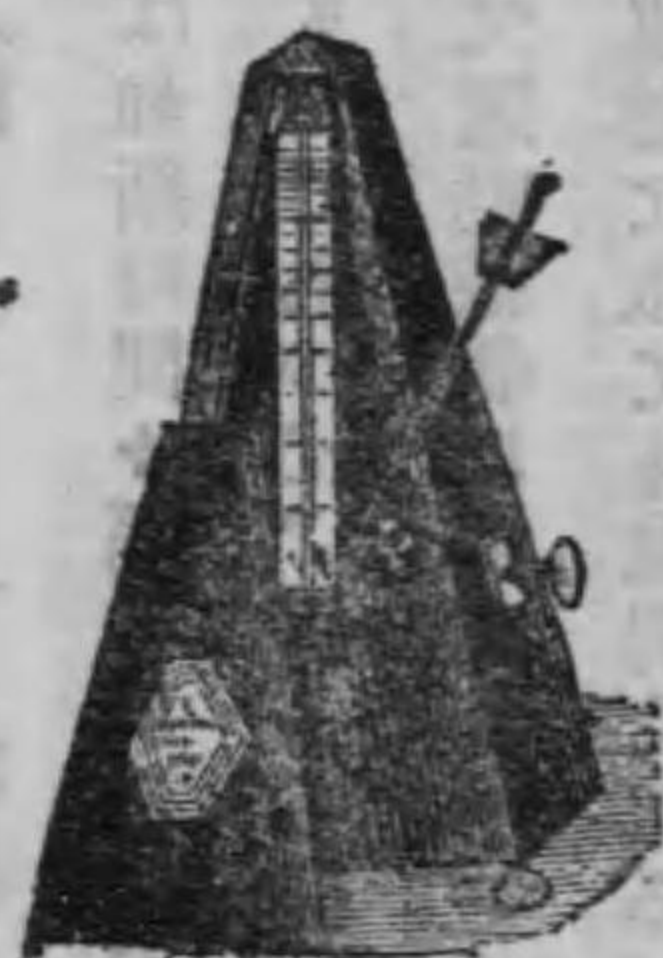
## 第一 Rhythmus.

我々が路を歩く時、足は或る一定の速度を以て前へ前へと、次から次へ運ばれてゆく。又我々が静に胸に手を置く時、心臓より流し出さるゝ血液がトントンと脈を立て響く、それが一定の速度を以て進んでゆく。又我々の呼吸氣を考へる時、之も矢張り時間的の速度を持つて居る。

右は我々人間のみではなく一般の動物に於ても見る事が出来る。例へば其の呼吸とか運動とか鳴聲とかに於て必らず一定の時間的の速度を有して居る。更に物理的の方面や科學的の方面を考へるならば、天體の運行より四季の變化、日々のあけくれに至るまで之又規則正しい一定の時間的の反覆を有して居る。即ち之等一般に一定の時間的速

## METRONOME

第九章 節奏 旋律 和聲



- Adagio—緩徐
- Allegretto—快活
- Allegroの如く速ならず
- Allegro—急速
- Andante—稍緩徐に
- Andantino
- Andanteより少し遅く
- Grave—徐に莊重に
- Larghetto
- largoの如く遅からず
- Largo—最も緩徐に
- Lento—極めて緩徐に
- Moderato—通常の速さに
- Prestissimo—極めて急速に
- Presto—急速に
- Allegroよりも速く
- Vivace—快活迅速

前表の數字は1分間に於けるテンポの數を現す(1分間のリズム)

44		42
52		50
60		54
66		63
72		69
80		76
88		84
96		92
104		100
112		108
120		116
132		126
144		138
160		152
176		168
192		184
208		200



度をリズム (律 Rhythmus) と稱する。

リズムとは如斯時間々隔の反覆されつゝ進行する状態又はその一筋の部分的断片について言ふものであつて、吾人の諸感覚の内最もリズムの印象を受け入れ易きは聴覚である。尙又運動感覚に於てもリズムミカルな印象を受け易い事は前に述べた歩行に際する手足の運動に依ても見得られる。而して聴覚に受けたる印象は音楽の如き——音楽的ならざるリズムも聴覚としては聞き得——最も良い例である。そして吾人の運動々作は身體各部の個有の適當なる律的反覆に依てなされる時に最も疲勞少なく、且愉快になされるのである。

如斯は唯に外形的にのみ限らず、精神的には例へば吾人の注意作用の如きも一種の律的経過を取るは事實である。即ち緊張と弛緩が交る交る来る様なのがそれである。又吾々は知らず知らずの間に宇宙の律に左右せられ、晝と夜とは精神的にも肉體的にも交番に交つた仕事をするのである。晝は働き遊び食ひ夜は床に入りて疲勞せる心身

を安めるのである。詩歌に於ても矢張り語音に表はるゝ強勢弱勢の定期的反覆交代がある。此の弱強二要素の結合した最も簡單な形を音楽上タクト Takt と稱し、詩歌にては Versfuss と云つて居る。

リズムが如斯大自然大宇宙のそれより引いて動物、人間の生活乃至は肉體的組織に至るまで定期的に反覆交代するのである。尙又野蠻未開の人間の間には於ける舞踏音楽詩歌等にも等しく認められるのであり、それが吾人に或る快感性を附與する事については古來種々の學者に依て論究せられたのである。アリストテレスはリズムを以て宇宙の整然たる秩序を表現するものであるとなし、吾人も又此の大宇宙の一部にすぎないから同様にその秩序に従ふのであると説明した。私は大宇宙のリズムに従ひて自分達の生理的節奏又はそれにとまよふ快感があるとするアリストテレスの説が事實上真か否かは知らないが、直接吾々のリズムの感知と表現とは生理的關係が重大であると思ふ事に躊躇するものではない。英のマーシャルの説は良いと思ふ。

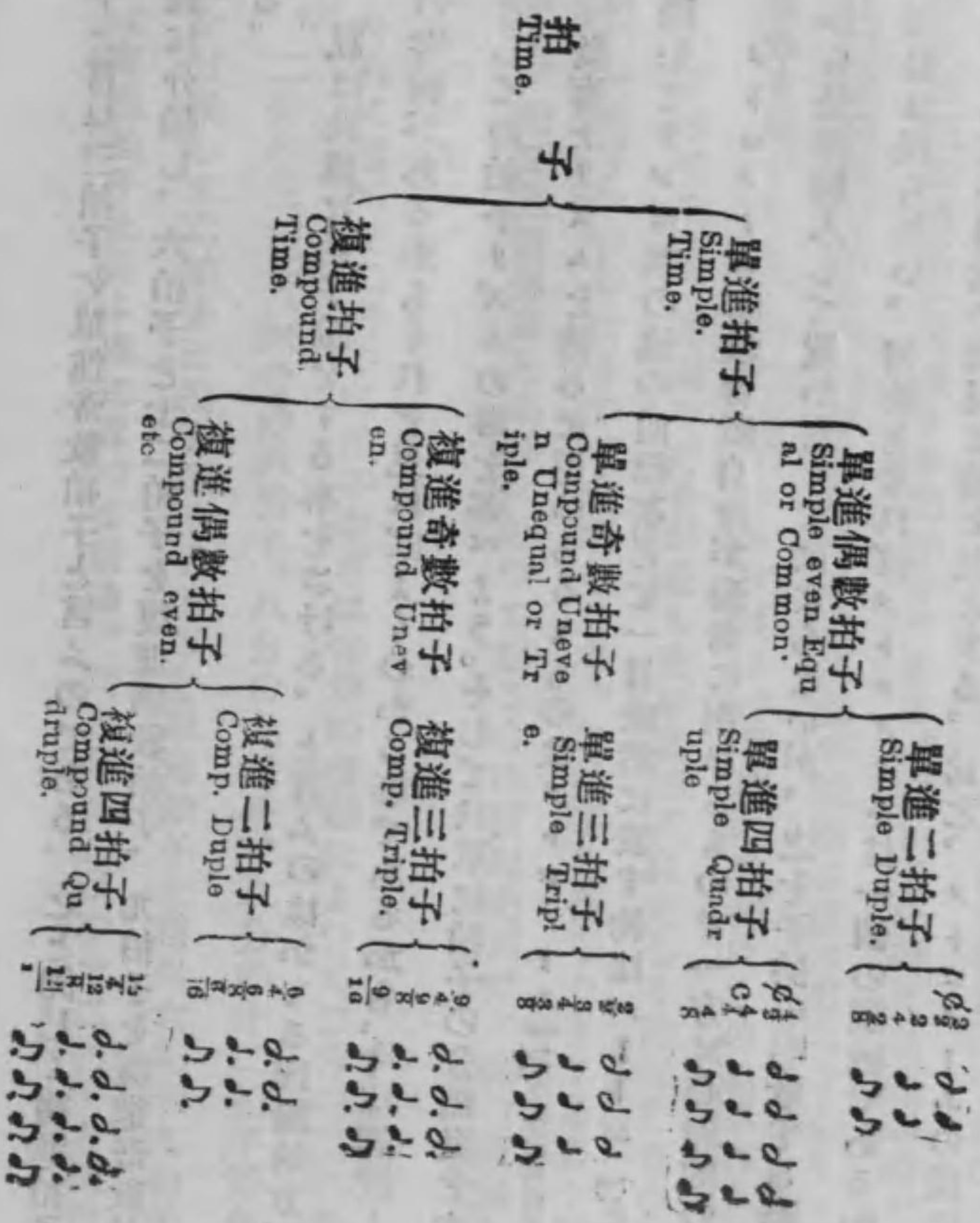
リズムの強弱と言ふ事は之が音楽上拍子の基礎となるのである。而して最も簡単な形式は強弱強弱と連続する二拍子である。三拍子の時には強弱弱であり四拍子の時には強弱強弱である四拍子の場合に於て先の強弱は後の強弱よりも一般に強い事は何人も知る所である。音楽上のメロディの音符の排列は此の拍子のリズムによつて並べられるのである。強弱の拍子が最も簡単な形式に正しく出てくるのを原始配列と言ひ、一拍子を音符によつて分割したり、二拍子を合したりするのを派成配列と稱して居る。尙又強弱強弱と強聲に始つて出るのは強起配列で、弱、強弱と出てくるのは弱起配列である。

今右に述べた二拍子四拍子などは音符の種類によつて二分の二拍子、二分の四拍子、二分の三拍子、四分の六拍子、八分の九拍子、八分の十二拍子等種々の形がある。之を分類して二拍子三拍子四拍子の事を單進拍子と言ひ六拍子九拍子及び十二拍子などは復進拍子と言ふ事になつて居る。尙又單進拍子中で二拍子と四拍子を單進偶數拍

子と言ひ三拍子を單進奇數拍子と言ふのである。之と同じく復進拍子の方も偶數と奇數に分類し、六拍子と十二拍子を復進偶數拍子、九拍子を復進奇數拍子と言ふのである。

私は此處に拍子論をする事をさける。と言ふのはかゝる理論的方面の事は種々澤山の書物があるからそれを見ればよくわかる事であるから、今は詳記しない。只實地教授としての拍子リズムの事を述べよう。そして只單に拍子の分類表を次にあげて置かう。教育上リズムを計るに用ひらるゝものはメトロノーム *Metronome* であり、教授に際してテンポ其の他の曲想などを一目瞭然に表す物はバトン *Baton* である。

メトロノームは教育者自身が参考に用ひるもので一方又心理的の實驗上必要であるから是非購入して置かなくてはならないが、之を子供の唱歌する際に使用するが如きは私は採らない。何故となればメトロノームは一個の機械であるから、我々が感情の聲としての唱歌の表現は情を主とする。爲之、メトロノームの様にキチンと歌はせる



必要はあるが、どうも機械的となつて少しも表情があらはれない。又表情に依つてはメトロノームの通りにゆかない事もあり、更に一曲全體がいつもマーチや舞曲曲の様にキチンと終始一貫したテンポで進む事が出来ないのが普通である。如何に吾々のリズムが大宇宙のリズムに従つて居るとは言へ時計やメトロノームの如く機械ではないから、又表情は唱歌の原始的にも又要素としても重大なる意義ある事であるから、メトロノームに依て唱歌せしめる様な事は以ての外である。只教師が自分の参考として速度を計る爲と、今一つは實驗心理上是非必要なのである。

次にバートンである。Baton 之には教育上必要な所因がある。最も進歩せる唱歌教授は、教授者の力あるものならばバートン一本で以て十分に教授なし得る。バートンは俗にタクト棒と言ふて居る。Taktstock である。最も力ある教授にはオルガンやピアノがなくても、バートン一本で以て十分なる價值を收め得るのである。實にバートンの使用は教育上種々必要な結果を收め得られるものである。

第一バートンは全兒童の注意を一處に集める事が出来る。次に拍子を一目瞭然のものと表現する事が出来る。之は重大なバートンの任務である。次に強弱を表すには強く大きく振ると軽く弱く小さく振るとによつて分けて表す事が出来る。又増聲には次第に大きく、減聲には次第に小さく、レガートは圓滑に曲線的にスタカットやスタカツチシモは活潑に強く直線的に使用する事に於て、それ等を明瞭に表示して演奏者に示す事が出来る。

バートンの功用は只に之のみならず、音樂的の曲想は如何なるものも殆んど全く一本のバートンに收め得られるのである。教授者がバートンを手にして教壇に立つ時、全兒童の目と心とはバートン一本に集る。教授者が曲想を自由に表情する時は、全兒童は手に汗を流す程に彼等の心は緊張するのである。

淋しい歌には淋し相に、楽しい歌には樂し相に、勇ましい歌には勇まし相に、急いで、優しく、柔かに、壯重に、自由自在な曲想の表現はバートンを持てるステージ上

の教授者の頭の先から足の先に至るまでの身振表情にて表はされる。實に教授者の身體は生ける立派なバートンでなければならぬ。木像にバートンを持たせた様な先生が唱歌教授をしたつて、價值も何もないのである。教授中に於ける教員の一舉手一踏足に至るまでそれが生きたバートンでなければならぬ。而して又初等教育に於ては假令樂器がなくとも此のバートン一本で以て容易にしかも完全に教授なし得られるのである。私自身は樂器よりもバートンに重きを置いて居る者である。

## 第二 Melody and Harmony

Melody は音の横の關係であり、Harmony は音の縦の關係である。換言すれば Melody は音の連続であり、Harmony は音の重疊である、前者は旋律であり後者は和絃である。

私は今此處に之等の専門的な、又は作曲上の規則などを説明しやうとするのではな

い。旋律には樂式論があり、和絃には和聲學があつて各々専門的に研究する事が出来、尙作曲については各々作曲法を説明した立派な書物が澤山に出版されて居るのであるから、若しかゝる方面の研究をするには、各々それ等について見る必要があり、本書はかゝる事まで説明する目的ではない。私も時期を得て右の様なものをもとめて、初學者の作曲に便利な様なものや、音樂上の趣味あるものに筆を取り度いとは思ふが、それは兎に角として、此處には Melody と Harmony との教育唱歌又は耳の教育との關係を述べる。

Melody は前にも言つた様に音の横の關係であり、音の連続の關係である。音には横の關係と縦の關係とがある。此縦横の關係に依て現在の音樂の世界が出来て居る。若し音に此の縦横の廣がりの性質がなければ音樂は成立しないし、音は唯物理學上の對象たるに止まつて、吾人の感情を表現すべき音樂の世界は成立して居らなかつたに違ひない。音の此の縦横の廣がりがあればこそ藝術としての音樂が成立するのである。

却説、音には如斯縦と横との廣がりがある。之が音樂の生命であり、根本の大問題なのである。Melody は音の高低強弱長短の連續を意味し、Harmony は音の波の和合不和合につきての重なりを意味する、此の Melody と Harmony との綾が藝術としての音樂を成就するものである。

Melody は音の高低と強弱と長短との綾であるが、之が音樂的に連続した一の旋律を構成する動機は所謂モチーフ Motive である。此のモチーフが或る一定の規律のもとに連續し、反覆し、集合してセクション Section を作る。モチーフだけでは立派な形式と言へないが、セクションとなると大分に音樂としての色彩が濃くなつて来る。此のセクションが更に連續して Phrase を作る。つまり樂句である。此處に至つて大抵音樂として完成した樂曲の一部をなす事となり、更に之が連續結合して、段落 Period となる。之が立派な Melody を作成したものである。

樂曲は實に此の段落の集合連續によつて成るものであつて、簡單な樂曲は八小節の

段落である樂部（之を第一樂部）が二個より成るものが至つて多い。而して此の二樂部より成立する樂曲は最も簡単な形式であり、之より原始的な成立はないのである。（單に一樂部だけで成立するものもあり、一樂部半の、三段の形式もあるが）。

しかしながら樂曲も他の美術と等しく統一 Unity と波瀾 Variety とがある。統一と言ふのは各部分がチャンとよく整頓されて居てお互によくバランスを保ち、立派なシムメトリーとしての平均と對應がなくてはならない。之がユニチーである。しかしながらキチンとシムメトリーを保つて一絲亂れざる一本調子のもものではあまりに單調すぎて變化がない。建築でも其の通りである。あまりに一本調子の單調が不斷に連續して全世界の建築を皆純セセッションとしてしまつた時には、どんな感じがあらう。つまり平凡であり感情が倦怠して來る。其所で之に變化を與へ。ゴシック式も必要であればヌーボー式もドリック式も必要であると言ふ事になつて來る。そこで又一建築だけから考へても、あまり形式が簡單であり單調であつては少しも綾がない。それが

如何にシムメトリーとしてもコントラストとしても完全であるとは言へ、吾人の感情の複雑さは只それのみを以て表現する事は不可能となつて來る。此處に波瀾 Variety と言ふ事が必要となつて來る。

音樂は他の藝術、例へば繪畫や彫刻の如く觀賞者に自由に、いつでも、一目瞭然と、全部一度に見せしめる事は出來ない。つまり視覚より入る藝術は時間をぬきにして觀賞する事が出来る。音樂はその様に時間をぬきにして觀賞する事は出來ない。此處が音樂の造形美術と異なる處である。

音樂は如斯時間的に漸次に表現してゆき、時間のリズムと共に漸次消失してしまふ藝術である。つまり聽覺藝術であるが爲に、一の統一した樂想を深く聽者に印象せしめるには必然或る曲節の反覆と模倣ばかりでは倦怠するから此處に變化を與へて此の統一を一度途中で破る必要がある。之が波瀾である。

今文部省の尋常小學唱歌の中にある村の鍛冶屋の曲を見ると、次の表の様な結合統

The diagram illustrates a musical phrase structure. At the top, a bracket labeled "Phrase" encompasses two "Section"s. Each "Section" contains two "Motive"s. Below this, four musical staves are shown, numbered 1 to 16. The first staff (measures 1-4) is labeled "第一樂句" (First Musical Sentence) and "(起句) 統一" (Start sentence, Unity). The second staff (measures 5-8) is labeled "第二樂句" (Second Musical Sentence) and "(承句) 模倣" (Continuation sentence, Imitation). The third staff (measures 9-12) is labeled "第三樂句" (Third Musical Sentence) and "(轉句) 波瀾" (Turning sentence, Wave). The fourth staff (measures 13-16) is labeled "第四樂句" (Fourth Musical Sentence) and "(結句) 反覆" (Ending sentence, Repetition). Below the staves, there are labels "A", "B", "C", and "D" corresponding to measures 4, 8, 12, and 16 respectively. At the bottom, there are labels "動機" (Motive) and "中節" (Middle section) under brackets.

一波瀾がある。  
 第一樂句は所謂起句であつて、樂想の發端である。1.のモチーフが起り、更にそれを模倣して2.のモチーフが起つて居る。而して第二樂句は第一樂句を繼承して反覆模倣し

て居り、此の第一樂句と第二樂句とのキチンとした反覆模倣のシムメトリーとコントラストとのユニチーを連續して來た爲、此處に感情の倦怠を來たした。爲之第三樂句に於て此の統一を破つて變化を與へて居る。つまり第一第二兩樂想を一變して全く別の異様な他のモチーフの連續が一の樂句を完成して居るが、しかし此の異様な樂想の中にも云ふに言はれぬ思想が第一第二樂句から流れて、之によつて連續して居る。之が轉句であつて作曲上最も苦辛の存する處であり、頗る變化に富んだ氣分を誘致する樂句である。次に第四樂句に於て再び第二樂句を反覆模倣して樂句を作つて居る。

更に第二樂句は第一樂句の反覆ではあるが、34のモチーフと78のモチーフと變化して居る。之は8のモチーフに於て半終止をする必要があるから第一樂句の34と同じ様には反覆する事が出來なくなり、少し變化して居るのであるが、大體の樂想は同様である。次に第四樂句は第一樂句を模倣した第二樂句を殆んどちがはず反覆模倣して居るもの、16のモチーフは大終止をせなければならぬ爲に、つまり樂曲全體の

大終止である爲に終止形にむすびをつけたのである。第四樂句はつまり結句であつて完全靜止法に依り終止して居るのである。

之で見てもよくわかる通りに、第三樂句は全體の統一を破つて所謂波瀾を形成して居る。直線式ばかりでは變化がないから、アーチ形の手法を採り入れた建築と同様である。如斯にして一のメロディーはモチーフが連續し、統一し波瀾して、音の高低強弱長短により立派に吾人の感情を表現してゆくのである。

次に Harmony である。Harmony は音の重覆の綾であり、縦の關係である。今の音楽は此の和聲によつて成るものであつて、和聲の根本となるものは和絃である。つまり和聲は和絃と言ふ音の縦の重覆が横に續く性質を言ふのである。

和絃は根音の上に第三度第五度と第三音を加ふる毎に現れる音波の波長の關係に依るのである。だから音波の長さの性質に依て和絃とならないものもある。協和音と不協和音とは如斯にして出来る。而して和絃中最も簡單な形は三和音である。根音、第

三度、第五度が即ちそれである。それが音程の長短によつて長三和音、短三和音、増三和音、減三和音の種類が出来る。所謂普通和絃は根音より長短三度と全五度より成る所の三和音を言ふのであつて最も普通に用ひらる、和絃である。

Harmony は如斯音の重疊であり縦の連續であるが、此の音の調和が各々 Melody として、又は其の中心となる Melody に附隨して横に進行する事に依て此處に立派な和聲が出来るのであり、音楽の立派な樂曲と言ふ藝術的作品が出来上るのである。和絃の連續である和聲については、尙又泰西の大作品の研究や作曲上の規則については、私の此の書の目的ではないから、此處には書かない事とする。唯かゝる研究者にとりては良い書物も澤山に出版されてあるからそれ等について見ればよくわかる事である。今初學者の爲に左に二三紹介して置く。

1. 山田耕作氏著、簡易作曲法。

此の書物は我國現代音楽界の大建物なる山田氏が其の深い研究の一部を初學者の爲に



發表されたものであり、行文流暢、簡單明瞭に其の大要を略述せられたものであるから、好樂者の是非一讀すべき好著である。

2. 吉田恒三氏著、唱歌作曲法。

之は多年音樂教育界に奔走せる氏が教育音樂家の爲に唱歌の作曲法を嚙んで含める様に至つて丁寧な説明されたものである。あまりに丁寧すぎてわかり切つた様な事をくどくどしく説明した様な處もないではないし、文章も十分平易に書いてはあるが、あまりにねれたものでないのはむしろ思ふ。がしかし初學者に取つては山田耕作氏の書物よりもモット平易に書いてあるから、教育者は假令音樂家でなくても一般に此位な音樂的の知識があつてほしいと思ふ。

3. 淺田泰順氏譯、律氏和聲學。

之はリヒテルの有名なる和聲學の譯本であつて、我國の文章で書かれたものの一番詳細なものである。淺田氏は東大の醫科の學生でありながら此の専門外の書物を譯され

た事に於て實に驚くの外なく、音樂學校の島崎教授が全部校閲をして居られるのだから、先づ我國和聲學の書物の内での權威であらう。其他、

4. 福井直秋氏、初等和聲學。

5. 神津仙三郎氏、和聲學初歩。

などがあるが、あまりに世の中に行はれては居らない。尙洋書では英米獨あたりのもので随分澤山なものが出版されて居り、私の知つて居るものも澤山あるが、今は略する。

却説 Melody と Harmony とは建築で言ふならばプランとエレベーションである。藝術としての音樂には生命である。音樂のプランでありエレベーションである。だから此の妙味は是非知つて居らなければ音樂を鑑賞する事は出来ない。尙又かゝる嚴密なる規則によらなくても子供に作歌作曲せしめ、自由に此の不思議な藝術的環境、音樂的の神園に誘導せめる事や、教師自身で作歌作曲して子供に味はしめ、子供の童

謠などにも直ちに作曲して歌はせて見るなどの事は今後是非とも必要な事である。作曲の出来ない様な、又は作歌の出来ない様な先生に教へてもらつた子供は不幸である。而して教育としての音楽の先生には一人で作歌も作曲も出来る人が最も尊いのである。

## 第十章 耳の教育としての餘論

### 第一 唱歌の教材

唱歌教材と言ふ事を聞く度に私はいつも思ひ出すのは、あまりに澤山教へ込まうとする害である。私は一學期に多くて三つ少くて一つか二つの唱歌を教へて十分であると思ふ。無論少いよりも澤山がよいが、その歌曲が理解され、眞に子供の感情にピッタリと合つて居らない内に次の歌曲にうつる事が多い。私は一學期三つで十分だと思ふ。それだけを十分上手に教へ得られたならば、觀賞教材として提出する事はよい事であるが、一學期に十も十五も教へやうと努力して見たり、又は細目の中に編んでみたりする事は以ての外無暴な事であり、そんな力のある先生が澤山に居るだらうか。一學期に三つを教へると言ふ事すら私はどうかと思ふ。一學年間に八つか九つの教材

が十分に子供にわかる様にすれば大成功である。

無論教材の選擇には骨を折らなければならない。その事については後で書く事とするが、私の知つて居る範圍ではあまりに杜選な教材を澤山に注ぎ込もうとして居る教員や學校が多い。極端なものになると一學期に十四五も選擇して居る者がある。余程音樂的な情緒と技術とを所有して居る教育者が教へても一學期三つ以上は無理である。式の唱歌などは特に良いものは別として、あまり價値なきものを子供に歌はせる必要はない。

或は言ふかも知れない。一學期に三つ位な僅少な歌曲で以て眞に藝術的の陶冶が出来るかと言ふ事と、その様な僅少な教材は直ちに子供がおぼえてしまふから、同じ曲を何回も反覆すると子供が倦んで來ると。しかし之は一面の眞理はあるとしても、私の考とは大分違つて居る。藝術的の陶冶は澤山教へるから多く出来るとは限らない。杜選な教材を澤山注ぎ込んで、十分に理解しても居らない内に次へ入ると言ふ様な現

在の状態はそれこそ非教育的である。十分に良い教材を十分に深く味はしめる爲には一學期三歌曲では尙多すぎる位のものである。そして子供が倦むものではない。倦むのは教員の力が足りないからである。先づ一學期十六週と假定して、一週間一時間の唱歌は十六週で十六時間の勘定だから、一歌曲に五時間を費すと假定すると正に三歌曲ではないか。一時間に一歌曲を教へるなど言ふ事は非教育極まつて居る。只どうなり歌へる様にして置けばそれで審美思想が涵養出來たと思へばとんでもない事である。一歌曲を提出すると言ふ事については随分か時間がかかる上に、種々教材についての深い情想を陶冶する必要がある。教室に入るなりいきなりから歌曲を提示して無難作につめ込んでしまふ様な事でどうして審美思想だの情想だのを涵養することが出來やうぞ。

一學期に三つの歌曲を提出すると一歌曲に五時間を使ふ事となる。一歌曲五時間で以て子供が倦むとか教材が足りないと言ふ様な教育者であれば教育とか音樂とかの

深い知識のない者である。例へば或る歌曲を授けると假定して、全部五時間の第一時間は教材の自由選撰をせしめるのに費される。新しい歌曲を教へやうとすれば教師は先づ四つ五つの新歌曲を獨唱してやり、又はピアノでもオルガンでもバイオリンでも奏して聞かせる。そして教師が獨音した歌曲一々について其の妙味の場所、楽しい所面白い所、それは何故面白いのか、何故楽しいのかなどの説明や、又それが名曲である場合には作者についての種々な傳説などを話してやる。尙又外國の曲であれば之は如何なる地方の如何なる風景人情國民性を歌つたものであるかなどを説明してやる。そしてその四五の歌から兒童の最も好むものを自由に選擇せしめる。かゝる仕事は新歌曲の提出にはなくてはならないものである。之で十分に面白く子供の情緒を引く様にする爲には一時間では尙足りない位である。

如斯にして總五時間中の第一時間は費ひやされてしまふ。第二時間は先日唱歌の時間に教師の提出した四五の歌曲の内子供の自由選擇した一歌曲について、更に詳細に

各種の説明を加へる。何れの國の何人の曲であるか、作者はと言ふ人であるか、又如何なる感情を歌つたものであるかなどを説明して此の一歌曲と言ふ藝術品に對して容易に出來たものではないと言ふ風に十分に重みを與へ、此の歌曲を貴重に取り扱はさせ、苟くも作者又は藝術品に對して輕卒なる考をいだしめない様にする。次にその曲を歌詞と共に、教師は兒童となりて互に研究して見る。尙時間があればその曲を歌はせて見る。如斯にして貴重なる五時間の内二時間を使つてしまつた。残る所は三時間、その内二時間で歌曲共に大體は歌へる様にしてやり、最後の一時間は個人に獨唱させたり伴奏をつけたり、又は大にその曲について觀賞せしめる。どうだ面白かつただらう。どんな所が面白いかなど、子供の感情にうつたへて聞いて見る。一歌曲五時間は實に教材が足らぬどころではない。時間が足らないので閉口しなければならぬ。一時間か二時間位で一歌曲をドンドンとつめ込んでどの様な教育が出来るか。唱歌教材については曲と歌との別々に調査して見て、その曲と歌詞とがよく教育的

にも音楽的にも一致して居るかどうかをよく考へた末提出しなければならぬ。

歌曲についてはそれがその學年の程度に合つて居るかとか、又は聲域はどうかなどの問題は十分に調査するのは大切な事であり、本書の別項に於ても述べたから此處に事新しく言ふ必要もあるまいと思ふ。先づ第一に曲調そのものが審美的の價値があるかどうかと言ふ事、第二に曲節が流暢であり高尚であるかと言ふ事、但し私此處に言ふ高尚と言ふ意味は決して從來の舊道德觀を以てした、佛教と儒教のこんがらがつた様な、道學者先生の道德的批判の上から見た高尚と言ふ意味では決してないのである。第三に曲調は不自然な所はないかと言ふ事、第四に短旋法の曲や陰旋律等曲調などの曲を絶対に排斥すべきである。かゝる曲は尋常小學校の兒童には旋律そのものはもとより、氣分が決して子供には適しないからである。但し尋常六年の女子や高等小學校の生徒には短旋法の歌曲も、十分に價値あるものを採用する事はさまたげないと思ふ。由來短音譜の曲は優長な嬾やかな、憂愁悲哀の感に落ちやすいもの

であるから、尋常小學校に於ては長音譜は勇壯活潑な、爽快な晴ればれとした曲調であるから、子供の心情にピッタリと合ふ様な曲は多く長音譜で出來て居る。氣活にみちた子供を教育する唱歌はよろしく長旋法によつた曲調でなければいけない。

次に歌詞の上よりも十分なる考察を必要とする。その大體は前にも幾回となく言つたから此處には大略しか書かない事とする。

歌詞は子供が讀んで直ちに理解の出來るものでなければいけない。唱歌の歌詞を讀本の形式教授をする様な風に教授しなければならぬ様な歌は絶対によくないのである。古い死した言葉の羅列や、故事を引用した様なものや、難かしい用語、無理に引き延したり引き縮めたりした様な歌はよくないと言ふ様な事は私が事新しく言ふ必要もあるまいと思ふ。尙歌の意味が事實とちがつた様な歌、例へば和歌の浦を日本三景の一だなど、詠んだ歌や面白い事も淋しい事もかなしい事も無い様な事を面白いとか淋しいとかかなしいとか詠んだ様なものはよくない。

歌詞については尙その内容について大に研究する必要がある。又男女についても自ら情趣が異なる。冬の最中に海水浴の歌や、夏の最中に雪合戦もあまり感興が巨離あり過ぎて彼等の情趣を引く事が少くない。季節と云ふ事は大に考へなければならぬ。次に曲と歌詞とがピッタリと合つて居ると言ふ事は重大な考察を要する事である。外國の至つて淋しい悲しい曲の一部や全部を取つて來て勇壯な歌詞や楽しい詠歌をつけて見たり、歌の方は至つて楽しく勇ましく出來て居るのに曲はねむい様なものであつたり、之と反對にねむい様にだれ切つた歌や少しも思想も何もない様な歌、例へば花がチラチラチラとかタ、ト、ト、ト、と言つた風なものや、少しも情緒が識り込まれてない様な歌曲に、至つて亂暴な不調和な曲をつけたりした様なものを採用する事は以ての外よくない。尙又歌詞は眠つて居るのに、曲はドンドンとはやして見たり、曲が靜な様に出來て居る小節に飛上る様な歌詞が入つたりした様な例は随分に我國の名家と言はるゝ人々の作に澤山あるのであるから、此の邊も大に注意すべきである。

殊に樂句と歌句との切れ目がよく一致したものでないと、夫れ田樂は麴と味噌にして兎角口に入るものなり。」と言つた風に聞えて歌も何もが何等の情趣を發揮しない事になる。又は君が代の「さよれ」と「しの」とが切り離されてしまつたりする様な事はあり勝の事であるから、教材の撰擇には細心の注意が必要である。

私の特に注意したいのは歌詞が口語體であると言ふ事である。尋常小學校の唱歌に文語體の唱歌を教へる様な事は斷じて良くない事である。私の主張は、

1. 口語體である事
2. 童謡趣味である事

之が至つて大切な事である。考へて見よ、讀本中に於ても文語體を使用する様な事は現在の不完全な教科書に於ても高學年級である。私は日本全國から文語體を全部排斥してしまひ度ひと思ふ。そして唱歌は童謡式の口語體を以てする事である。文語體の唱歌を小學校の生徒に教へるなんかは無自覺も程がある。

或る人は次の如き項目要項を立て、教材の撰擇要件として居る。「式祭日の儀式に唱歌せしめられる様なもの、敬神の念を養ふ様なもの、聖人君子の傳記を詠じたもの、聖主の徳澤を欽慕せしめる様なもの、父母の恩恵を敬慕せしめるもの、孝子節婦の傳記を詠じたもの、尊王愛國の心、義勇奉公の志氣を喚發せしむるもの、忠臣義士の事跡を知らしむるもの。」と言ふのである。私は之を見て馬鹿臭くてならなかつた。唱歌と言ふものは決してかゝるものではない。かゝる歌詞をのみ撰擇して、どうして審美も情趣もが養成されるか、

世の中には随分右の様な教材が澤山あり、無自覺な教育者に依りて教育に使用され、引いて大切な第二の國民が殺されて居るのである。唱歌と言ふものは「あなたふ」とか「あなかしこ」とか言はずにそんな事を言はずして、「あなたふ」と「あなかしこ」と言ふ氣分になるのである。忠臣義士を詠じたり、孝子節婦を歌つたりする事は悪い事ではあるまいが、唱歌としては孝行をせよとか父母を敬まへなどと、修身の格言

に曲をつけて歌はせなければかゝる題目を遂行してゆく上に故障があるものではなくて、どんな歌でも歌を歌ふと言ふ事、或る高尚なる情趣を引き起すと言ふ事、それ自身に忠義にもなり孝行にもなり、信義にも尊王にも愛國にもなるのである。藝術的高尚なる天地に一時間なりと二時間なりと入りびたると言ふ事が忠であり孝であるのだ。孝行せよ、正直なれなどと形式的に詰め込もうとするのは無自覺な教育である。

兎に角唱歌は他教科の奴隷ではない。尙又古い古いかびの生えた様な舊道徳や舊思想の奴隷でもない。可憐な無邪氣な兒童の心を高尚な愛の天地に引きつけやうとするのである。愛の高塔に立たせやうとするのである。それが眞の教育である。徒に「孝女」や「忠孝」や「忍耐」や「正直」。ことに二宮金次郎の歌や、軒より落つる雨だれの歌、行けや行けやとか舞へや舞へやとかの變な調子で以て叫ばせたり奴鳴らせたりして居る様な事で、どうして教育が出来やうぞ。須からく教師先づ愛の高塔に立て、而して無邪氣な子供の美しい心を神境に誘ひ出せ。

## 第二 時間表より見たる耳の教育

大體我國の教育制度は知育に偏して居る。之はだれしもが認める所である。所が一寸之を改造する事も改革する事も出来ない。それは法文によつて規定されて居て身動きもならない。由來法文で以て教育が出来ると思ふ事はそれ自身が誤つて居る。が又法文に服従してしまつて縮み上つた様な教育をして居る者は腕なし教育者か腰ぬけ教員である。

唱歌の時間が足りない。小學校も女學校ももつと澤山な時間を藝術教育に使用しなくてはならない。知育の時間が大部分であつて、藝術教育の時間は實に一割ばかりである。之で以て將來の國民の審美教養だの、感情陶冶だのが出来るものか。文部省あたりはもとより、各地方の長官や校長など言ふものどもは、藝術と言ふものゝ人生に重大な意義ある事だと言ふ事を知らなう。

却説問題は唱歌教授の時間割である。藝術教育がしかく現代の我國教育界から輕視せられて居る爲に、其の時間表などの上に頗る亂暴な取扱を受けて満足して居らなければならぬ。唱歌の先生と言はゞ女學校や小學校でも御かげで末席に置いてもらつて薄給に泣いて居なければならぬ。

唱歌を知識教科の後にもつて來る事は他教科との關係上止むを得ないかも知れない。大變に疲勞した學科の次へ唱歌を置く事は、疲勞を回復すると言ふ人がある。又唱歌は疲勞度が大變に少ないと言ふ人がある。一方には之と反對に唱歌は大變に子供が疲勞すると説く人もある。之は如何様にでも見られる問題である。唯しかしながら唱歌もそのやり鹽梅に依ては随分に疲勞する事は確だと思ふ。

唱歌せしめる事の他、耳の教育として、種々の唱歌を聞くと云ふ事は、決して疲勞がないとは言ひ得ない。唱歌を體操の後へもつて來たり、木工などの後などに置く事はよくない位な事は何人も知つて居る事である。尙又運動場に近い唱歌教室などでは



他學級の時間割を大に參考にする必要がある。

唱歌が一週一時間の場合には二つに區分して他の修身とか讀方とか體操とかの時間と組み合せて一時間とするのが良いと思ふ。すると一週間に一時間——四十五分——の一回の唱歌も二回に出来る。但し體操と組み合わせる時は唱歌を先とする必要がある。一週二時間の場合には右の方法によりて四回に分けた方がよい。

私は今後の教育には是非唱歌劇の時間と舞蹈の時間とを少くとも一週各一時間宛置く必要があると思ふ、さすれば之等と唱歌とを組合せる事は更に有意義となつて来る。

一學期に一回は是非唱歌會や舞踊會や唱歌劇の日を設けて全校の兒童が參觀する様にしたいと思ふ。しかし頭の舊い官僚や、頭の堅いストロンヘッドの校長がエラバツて居る様な現在の教育では尙前途遠大な事であるかも知れない。

唱歌や舞踏やさては唱歌劇などは眞に生ける道德教育であり、最も彼等被教育者の

心機に合つたものであるから、新しき自覺せる教育者はドシドシと之等を教育に取り入れて大に活氣ある教育をしてもらい度いものである。藝術と言ふ様な高貴なものはどうせ舊式の校長や官僚にはわからないのだから、そんなものを相手にせず、眞理に向つて突進してもらい度い。自分の首を的にかけてでも教育しなければ、眞に我國の教育なんか救へないのである。

### 第三 學校唱歌と家庭

太郎は學校から歸つて來ると、一時間程の自習を了へて、ほつと縁端に立つて紅葉の散りゆくをながめながら、

秋の夕陽に、映る山紅葉。

濃いもうすいも、數ある中で！

と高らかに歌ふと、家の中から親爺が大目玉をひき出して「馬鹿、お父さまが仕事を

して居るのに大きな聲で何を言ふのだ。静にせい。「又母親は「次郎を寝かせて居るのに困るじゃないか、どこか外へ出て歌つておいで。」如斯にして神聖なる高貴なる藝術教育は破壊されてしまふのである。

お父様のお友達が訪問して來られる。お父様は何かと御馳走をして饗應せられる。宴まさに酣にならうとするや子供も何もあつたものでなし。「あなたとならば何處までも……。「己れと行かぬいかよう、何處ゆく……。」と高らかに歌ひさはぐ。遂には「ヤツチヨロマカセノ……。」と踊り出す。子供はお父様のなさる事だから小言も言はず、變な顔をして見て居ると言ふ始末。可憐な子供心の無邪氣さは、如斯にして家庭に於て破壊されてしまふ事が多い。日本の多くの家庭に於て破壊されてしまふ事が多い。日本の多くの家庭は尙々底級なものである。何等子供の事は考へて居らざる。子供の親に教育眼がないのである。

斯く言はゞ大都市の教育者は不思議に思ふかも知れない。それ程までにわけのわからぬ家庭の親があらうかと、否とよ我國大多數の子供の親は尙々そんな自覺はないのである。人から來た手紙や葉書を子供に讀んでもらはなければ解らぬ様な親や、子供の質問に答へられない親が澤山にあるのだ。大都市こそはと思ふかも知れないが、茶屋へ散財に行つて盛に踊り回つて居る所を生徒に見つけられたり、中には生徒の家庭が遊廓である所から、安く勉強するのを見込んで押しかけて行つたりする様な先生も澤山にあるのを如何にかせむやである。そこで先生の歌ふ歌は矢張り學校の唱歌でなくて追分である空飛ぶ飛行器である。田舎の先生が學校の裁縫教室で盛に飲んで居た。遂に追分となり安來節となり空飛ぶ飛行器となつて、その後は男女教員入り亂れて雨とやならひ風とやならひ、あなちそろしき所を生徒が見つけ出したと言ふ話は澤山にある。

必らずしも貧乏な者の家庭のみが底級であり非教育的であるとは言ひ得ない。門地あり金錢に何不自由なき家庭に於ても非教育的な事は澤山にある。何とか言ふ色才兼

備の華族出の女歌人が、年の行つた夫を捨て、年若き學士のもとに走つた様な事は、随分に社會の問題となつても、それが妾腹に生れた子であつたり、家の下女に生ませた落胤であつたりした時には、如何にもと合てんがゆく事であらう。かゝる家庭の決して少なからずある事を認めなければならぬし、かゝる場合に親は子に如何にして訓戒教養が出来やうぞ。親としての資格のない親も世の中には澤山あるのである。高貴なる藝術だの教育だの、普及しないのも實に故あるかなである、殊に周圍の環境が如何に深刻に彼等子供に影響するかは有名なる孟母の三遷の傳説に依つても十分である。

子供の周圍の雰圍氣が子供の教育に多大の影響ある事は何人も認むる處であらう。殊に其れ等の雰圍氣中家庭の環境が最も刺戟が大であると言ひ得られる。實に家庭の教育に及ぼす影響は眞に絶大なものがあるのである。

歐米先進國に於ても必ずしも家庭の音樂的刺戟が學校のそれと一致して居るとは

言ひ得ない。唯しかしながら家庭の人々の音樂に對する趣味と感興が日本の家庭の如くしかく大人と子供の間に離りを生じては居らない。此處に教育上多大の便利と進歩があると思はれる。

日本に於ても近來有識者や知識階級の家庭に於ては盛に西洋音樂が入り込んで來て、ピアノやオルガン、さてはバイオリンやマンドリンの音を屋外に漏らして居る様である。しかし之とても國民全體の一割には到らない。大都市に於て家庭に樂器を備へて居る數の多いのは東京市である。次に大阪市であらうと思はれる。京都市の小學校兒童について調査して見た結果、京都市の中心學株二三と吉田の大學近傍を中心とした知識階級の多い所と兒童數二千七百名余の家庭について、それらの家庭に樂器の備へあるもの——但し西洋樂器——九十三軒である。其の種別は、バイオリンが最多數を占めて四十一、ピアノは十九、オルガンは二十八、他は其他である。此の調査は五六年の間に私がしたもので決して一時にやつたものではない事と、極一部分の子供

の家庭と調べたのであるから、全市に於ては随分に澤山にあらうと思はれる、がしかし到底戸數の一割と言ふ様な大した事は決してないのであり、假令バイオリンやピアノを備へて居る家庭でも、それが眞に趣味的に又奏し得る家族があると言ふ意味ではない。尙學校に兒童が來て居らない家庭にも澤山あらうから實數は尙々多數に上らうけれど、それとて大した事はないのである。殊に一步郊外の村落に入るならば、一郡中に一個もない様な所が多々あらうと思はれる。(但し學校を除外して)右の如き次第だから西洋音樂の普及も前途尙遠である。

西洋音樂の普及には樂器が必ずしも必要ではない。しかしながら樂器設備の多少は又其の普及程度の一面を物語るものであるから、尙又普及につれて樂器の必要を感じて來るのも當然であるから、學校などには今後十分澤山な樂器を備へて、上級の生徒にどしどしと器樂の教授もしなければならぬ。

日本では樂器が一般に高價すぎる。西洋から泊來して來た様なものは到つて高い。

西洋あたりでは日本程高くないが、之が日本の樂器商に來ると大變な高價なものになつて居る。無論關稅もあり運賃も澤山にかゝらうけれども、一つは樂器商と言ふものは香具師が多い。大都市に於ける大樂器商などでも随分に如何はしいものが澤山ある。まして群小樂器店の暴利とてはお話にも何もならない。日本製の樂器ですらピアノ何千圓など言ふものがあるが、ピアノ製造や構造の方の事をよく知つて居る私が見て、實に馬鹿らしい高價なものであると思ふ。或る人の所有して居た泊來のピアノを六百圓かで購入した或る大樂器店が二三ヶ月に他へ賣却した時には驚くなかれ千二百圓也である。

日本では樂器が到つて高價であるから、之が音樂の普及に大變な障害となる事は明な事である。ましてその高價は主として不正なる暴利に存すとすれば實に寒心の至である。日本の製品は泊來品とはちがつて頗る劣つて居る。ピアノ一つにしても決して泊來の品とは比較にならない。マルキリ音が異なつて居る。しかも關稅もいらぬ

上に運賃など安いものである。それでも舶來品とあまりにかはらない程高價なのである。

我國には樂器製造所が到つて少數である、しかも其の少數な樂器製造所が獨占的の營利を取つて居るが爲に自然暴利とならざるを得ない。

現在では全國の各小學校にオルガンだけは全體設備された様であるが、其の大多數の小學校のオルガンは主として其の府縣立の師範學校の唱歌教員が鑑定して居る様である。それは其の府縣の小學校長や教員は主として其の地の師範出身者だからである。だから直ちに母校の唱歌教員に鑑定を依頼して來る。所で師範學校の唱歌の教員は先づ樂器商と内通して置く。と言ふのは樂器商にしても師範の先生を抱き置けばその府縣下に於ける樂器を澤山供給し賣却する事が出来るので商賣上ぬけ目がないのである。かゝれば其の各地の小學校のオルガンの鑑定は至つて疑問なものであり、師範の先生も樂器商も共に大利益を得て居たものである。何も知らない小學校の校長や女

教員は如斯にして暴利をも知らずにかすめ取られて居たのである。不正な不完全な品に大變な高價を付けて賣却してみたり、一寸古い様な品を購入して來てニスを塗りかへて新荷着の品だと稱して賣却して見たり、言ふに言はれぬ不正な事をして居た者は澤山にあると言ふ事であるが、かゝる師範の先生の不正な事件でなくても、一般の樂器商は顧客の樂器に對する無知につけ込んで暴利をひさばる様な事は公然の秘密の様になつて居る。實に日本製の總ての樂器は世界最高價にして世界最劣惡であると言ひ得る。

話は一寸横道に入りかけた。しかし之は實に我國の音樂普及に對しての大障害であるから如斯一言した事である。樂器のみならず譜本にしても我國のものは如何に高價なるかよ。彼のニューヨークの G. Schirmer, 出版のソナタ・アルバムが一冊(大判の良質紙に全部銅版印刷されたもの二百頁の大冊)が僅に我國で壹圓二十錢の定價である。之に比して何とか某樂譜と稱する一曲毎に別々に分離したものが東京で出版されて居

るのを見て比較せよ。一曲で二枚の紙に印刷されたものが驚く勿れ五十銭でないか、實にあきれはてたものである。

却説話はもとにもどる。兎に角楽器が到つて高價であり、樂譜も又頗る暴利を取られて居るとして、之はどうも今の處止むを得ないが、家庭の音樂を盛にするのには、どうしても女子の教育に十分音樂を盛にする必要があると思ふ。音樂は女子のみならず男子も通じて必要である事は言ふまでもない事であるが、しかし家庭音樂を普及する上からは未來に家庭の主婦となるべき女子の音樂教育は重大なる意義がある。家庭に音樂が普及すればそれが學校教育と相まらちて我國の音樂に至大の進歩を來す事である。學校音樂の改造は先づ師範の音樂教育より、家庭音樂の改造、否普及と進歩は女子の音樂教育より始まる。而して現在我國の女學校の音樂と師範の音樂とを見る時、實に進歩の遅々として進まざるに驚くのである。

お父様は大きな食卓の正面に坐し、お婆様もお爺様も子供も皆が此の食卓を取りま

いてお母様の御給仕によつて夕食をすませ、却説お父様は「太郎や、お前は今日、學校で教はつた唱歌を一つ歌つて聞かせてくれ、お父様も一つおぼえて見たいから。」と言ふ。太郎は得意然として歌ふ。お父様も一生懸命になつて太郎の唱歌に真似ておぼえる。そこで若し樂器でもあればお母様は早速樂器によつて伴奏する。老人は之を聞き役をする。之が眞に生ける家庭であり、生ける生活である。人世の幸福之より大なるはなしである。

家庭に於てはいつも子供の教はつて來た歌を食後などにはさつと家族一同の前で歌はせて、大に觀賞してやる事は必要だ。殊に子供の歌ふ歌を母親が知らない様な事である。家庭では母親がいつも樂室の長となつて大に美しい和氣團樂の家庭を作らんければならない。それには女子の音樂教育は最も大切であり今日の急務である。女學校の音樂は今後大に改良せられなければならない。

由來日本の子供の親達は食はず嫌ひである。西洋音樂の妙所がわからないのであ

る。だから教育者は度々學校で子供の音樂會や教員の演奏會を開いて彼等一般の父兄に聞かしめ、父兄母姉の耳の教育をせなければならぬ。所が一校にオルガンを自由に奏し得る、又は樂譜を自由に讀み得る様な先生が一人でもあれば余程よい學校である。眞に師範學校の音樂教育の不振と言はなければならぬ。師範出身の小學校の先生で音樂の理解のない人が其の大部分を占めて居る様な事では到底音樂の普及も何も望まれないのである。

現在の師範教育は實に不完全なものであり不眞面なものである。特に音樂と來てはお話にならない。そこへ音樂を閑人の閑事業視して居る様な古い頭の校長が居て、之を輕視し之を無用視して居る、實に以ての外の事、言語道斷の極みである。自覺あり理解ある教育者、若き教育者は、今や身命を賭して大教育の向上進歩をはからなければならぬ。而して審美と情想の陶冶としての重大責任を有する耳の教育は此際根本的の改築を要するのである。

#### 第四 唱 歌 劇

北村季晴氏が「ドンブラコ」と題する桃太郎の御伽噺を *Childrens Operetta* に仕組んだものが明治四十四年に出版されたのであつたが、其の當時には一部の好樂家の他はあまりに顧みる者が少なかつた。然るに其後時代の進歩と教育の改造とに依つて、追々と此の「ドンブラコ」が行はれ出し、教育的の歌劇や學校の試演などに盛に流行して、子供に大變に歡迎せられる様になつた。

次で吉丸一昌氏作歌、本居長世氏作曲の、「歌遊びうかれ達磨」と言ふ先の「ドンブラコ」にも劣らぬ大作が出版された。ソレは大正三年の事である。「うかれ達磨」にしても「ドンブラコ」にしても實に長編の大作であるが、「うかれ達磨」は作曲者と作歌者とちがふ所からでもあらう、歌詞の意味感情を十分に曲想にあらはし得ない所や、歌と曲がピッタリと兒童心理に合致しない様な所もあるので、歌も曲も同一人の作であ

る「ドンブラコ」の様には成功して居らない様だし、曲が少く子供の心理に遠いので、十分に流行する事はなかつた。

唯此處に注意すべき事は、從來の唱歌や教育の舊套を脱して右の様なチルドレンス・オペレッタが、しかも大作が二部まで出版された事は、我國教育上慶賀すべき事である、尙其の二部が二部とも立派な作品であり樂章であるのは吾人の欣喜にたへない處であつた。其後かゝる小歌劇を主とした所謂オペレッタや、特に教育上のみの目的を持つた學校唱歌劇の類が澤山に出版になつて、學藝會や唱歌會に講堂のステージ上で試演をやつて大に價值のある様なものも出來て來た。

西洋諸國に於ては早くよりかゝるこゝろみが教育上澤山に用ひられて居たし、舞踏の如きも驚くべき教育上の効果を收めて居たのであつた。しかし我國の唱歌教授の上に直接かかるこゝろみを提唱した人はあつても、實際に直接用ひられる様な脚本を提供してくれた人は前の「ドンブラコ」や「うかれ達磨」を以て始めとしなければなら

ない。而して此の立派なる二つの作品が教育上にどれだけ大いなる價值を收めたかは今更言ふまでもない事である。

抑歌劇と言ふのは今更定義を下すまでもなく、西洋諸國に於ても早くよりオペラ Opera として専門的にステージの上で演出せられ、大變に進歩發達を來して居る唱歌を主とする物語である。換言すれば音樂に仕組まれたる劇である。無論扮装や動作や舞踏や背景も大變に重要なものであり、光線や建築繪畫に至るまで、十分に遺憾なく此の物語を援助しなければならぬ。しかしながら最も重要なものは音樂である。無論聲樂も入用であり、管絃樂も必要であるが、要するに音樂を主とした物語りである。

教育上かゝる専門的な大歌劇を見せしめる事は大變に良い事であるが、常に子供に試演をさせ、又は講堂の如き場所にて幾回となく演出せしめるには、もつと簡單な規模の小さなものが必要である。何故とならば小學校に於てはステージの上で大きな



背景を作つたり、管絃樂を入れたりする様な事は餘程困難であり、色電氣を用ひたり、フッドライトを照したり、さては専門的の粉装をさせたりする様な事は更に困難である。だから此の意味から言へば小學校兒童の試演には先の「ドンブラコ」や「うかれ達磨」などはあまりに樂章が長すぎるし、更に規模が大きすぎるのである。今少し小規模のものが必要である。

かゝる要求と希望に依りて生れ出た作品は其後澤山に發行された。私の手もとにあるもので私の知つて居るものゝ一部を参考の爲に次に書いて見ると、

1. 東京七聲會教育部編
  - 第一編 はだか蟲……第二編 まき場の兎……第三編 青い鳥……第四編 鋤と
  - 鎌……第五編 毬ちやんの繪本……第六編 茶目子の一日
2. 同上編歌劇叢書
  - 第一編 お伽歌劇から山後日譚……第二編 喜歌劇ラ、マスコツテ……第三

編 お伽歌劇クリスマス……第四編 喜歌劇古城の鐘……第五編 カフェーの  
夜……第六編 アルカンタラの醫師……第七編 アーティストライフ……第八編  
天國と地獄

3. 北村季晴氏著
  - ドンブラコ（別冊唱歌の部）……對話唱歌かくれんぼ
  - 對話唱歌人形病院……對話唱歌ハイハイ息子
4. 山本壽氏他二氏著
  - 舌切雀……かうもり……狐と虎……花咲爺
5. 小松耕輔氏著
  - お伽歌劇第一編……お伽歌劇第二編

私の今手もとにあるのは之位であるが、小年小女の雑誌などには随分に面白さうなのが澤山出来て居る様である。無論勸善懲惡の一てんばりである舊道德學者の目には

いかゞと思はれる様なものではないけれど、その様な古い頭の者を顧みる必要はない。ドンドンと教育に取り入れて然るべき事であり、教授者自身が作曲すれば自分の氣に入つたのが出来る。其他雑誌などに出た脚本で教員が作曲すれば澤山に出来る。要之今後音楽の教育は小學校のみならず、此の方面の材料を大に取り入れなければならぬ。尙又今後は學校に常設試演場を作つて、いつもそこからは楽しいメロディが流れて居り、かくして眞にたのしい面白い教育が出現しなければならぬ。爲之には唱歌教室を改造してステージを作り、かゝる教育に適當なる設備が必要である。本書に挿入れた理想的の唱歌教室はかゝる意味から私の設計したものである。私も今までに澤山かゝる作曲作歌もやつて見たが、何れ訂正して氣に入る様なものにもなれば世に問ふて見度いと思つて居る。

### 目と耳との教育 第一部 (終)

大正拾壹年六月廿一日印刷

大正拾壹年六月廿四日發行

目と耳の教育

正價金貳圓五拾錢

著作者 栗山周一

發行所 東京市神田區表神保町七番地 阪本眞三

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 吉田松次

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 秀英舎第一工場



發行所

東京市神田區表神保町七番地  
振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店

私の著述は總て文學藝術教育の提唱であります

(同じ著者によりて)

最近 史潮 歴史教育の根本的革新論  
杜撰 尋常小學國史の批判

東京大同館出版 第七版  
大正十年度新刊  
東京大同館出版 第二版  
大正十年度新刊

右前者は著者が歴史教育に於ける根本的原理を叙述したるものにして歴史哲學に立脚し著者が思索と體驗に基づきて主張せる歴史の文學法なり、從來嘗て説かれたる事なき新主張なり、後者は右原理に基づき新制定國史教科書を詳細に説明し批判したり。

現今の殺人的教育

東京二松堂出版 第三版  
大正十年度新刊

右は著者が現今教育の實際的實例の直接批判の一部なり、

目と耳との教育 第一版  
目と耳との教育 第二版

東京大同館出版 第一版  
大正十一年度新刊  
藝術教育部 近刊

◇小林一郎氏新著◇ (再版亦々賣切三版出來) |

好評 三版

奥の細道評釋

四六判最上製美本  
金壹冊壹百餘頁  
金壹圓參拾錢  
送料十二錢

旅を以て生命とせる芭蕉翁が奥村から北嶽に亘る半歳に餘れる旅日記なり之を讀む者は宛ら此の俳諧に伴ひて山水の間に放浪するの感嘆を能はず芭蕉の集中無二の名篇たるのみならず此の種の文としては東西古今一も比肩すべき者無し著者が芭蕉に對する渴仰の意は自ら此の註釋を成せり。未だ芭蕉を知らざる者も既に知る者も共に必ず一讀せざるべからず。

◇小林榮子女史考案◇ (極彩色十數度刷・優美文字石版刷) |

趣味 俳句いろはかるた

特別最上製  
壹組箱入  
正價  
金壹圓八十錢  
送料拾八錢

自分の子を出來る丈立派に育て上たいと望まぬ親はありますまい。立派に育て上るのには高尚な趣味を養はせるのが最も大切な條件です。日本は世界に類の少い趣味の國と言はれて居ます俳句は此の國民性を最もよく現はしたものです。私は古來の名句の中から殊に小さい人に適する様なのを採み自分の子供に取せて使しました。今度之に繪を添へ皆さんに提供するのには皆さんが揃つて立派な人に成て下さるやうと願ふからですそれが皆さん自身の爲でもあり又御國の爲でもあると思ひます。

東京 八橋 金口 座  
東京 七橋 座

大 同 館 發 行

東京市神田區  
表保町七

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

文學博士 紀平正美先生新著

九版 自我論

四六判最上製美本  
全壹册 紙數約五百頁  
正價 金貳圓  
郵税金十二錢

本書「自我論」一篇は全く自分の觀念論の上に立脚して組織したものである。前編「自我の分析」に於ては出來得る限りの分析を試みた。廣義に於ける教育者或は人の上に立つ人には其方法上に多少の参考書となるべきものと信ずる。後編「人格の價值」に於ては人格の意義と價值とを論理的に定めんと企てた。即ち理想の何ものたるかを論じて哲學○宗教○道德其他一般に人文現象の根柢となるべきものを定め以て現代人の趨くべき方法を示さんと計つた積りである切に學者の批評を待つ。——著者識——

文學博士 紀平正美先生新著

五版 改訂 人格の力

四六判最上製美本  
全壹册 三百廿頁  
正價 金壹圓五拾錢  
郵税金十二錢

本書は今より十一年前に一度江湖に愛讀を得たものであるが其後久しく絶版せられてゐた。然るに昨年末に其姉妹篤たる「自我論」を出版したに就て再び讀者から要求が出たので同書の出版社からして再び世に出る事になつたのである。然し十一年の間に社會の事情も非常に變化した。自分の思想も亦多少發展してゐるのであるから其儘での再動は到底許す事が出来ない。それで全部書き改めて自分の責任を新にしたのである。もと四拾錢の價のものに壹圓五拾錢になつた。内容に其れ丈の差があるか否かは讀者の判定に待つべきであるが自分からは時代の推移と諦められん事を願ふのである。——著者識——

文學博士 波多野精一序

八版 ベルグソンと現代思潮

早稲田大學教授内ヶ崎作三郎序 野村隈畔著 (四六判最上製美本 全壹册 紙數約五百頁 箱入 金貳圓五拾錢 送料金十八錢)

本書はベルグソンと現代思潮との關係を説いて極めて詳密である即ち一卷の現代思想評論と見ることが出来る。内容はベルグソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルグソン哲學の特色と價值とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價值がある文章は一度之を手に入れば知らず識らずの間に讀了せしむる魔力ある文體に依つたので感興殊に深い。近來絶無の良書として江湖に一讀をすまぬ。——(六合雜誌評)——

松山高等學校教授 三並良譯著 (菊判最上製 全貳圓五拾錢 送料金十八錢) 東京 神田 表神 七町 大同館發行

七版

オイケン 人生の意義と價值

舊世界觀は倒たり、雖も新世界觀は未だ確立せず、思想界は紛亂し人間はその歸趣に迷はんとす。是れ實に現代の煩悶にして精神界一切の病源なり。オイケン博士が獨特の見地より此大問題の解決を試みたるものを本書とす。由來博士の所説は難解なりとの評ありと雖も本書の如きは決して然らず。博士も亦常に本書を最も平易の叙述と稱せり。そして博士と親交ある譯者が最新第五版によれる譯筆も亦た平明流暢なり。オイケン哲學の眞髓を知り人生問題を解かんとする者は之を繕かざるを得ず。……………



◇原田 實氏新著◇ (人間の力と光との活動を勵す)

# 新刊 人間への教育

四六判最上製  
美本六百頁  
正價金  
貳圓八拾錢  
送料十二錢

世界は人間の心を忘れ人間の姿を見失つて居る。家庭からも学校からも社会からも人間の力と光とが消え失せてゐる。思へば、價値の顛倒を力説して靈魂の貧民を睥睨した哲人の心と自然に歸れと絶叫して外形の奴隷を叱咤した革命家の心とが慕はしい。私は切に人間の心を思ひ人間の姿を想はざるを得ない。この思想と志向とが本書を書かせたと云へる。私は私達の家庭と学校と社会とは今や「人間への教育」を深く考へて見なければならぬ一大危局に立つて居るといふことをつくづくと思ふ者である(自序の一節)

◇志垣 寛氏新著◇ (青年教育者必讀の要書)

# 新刊 弱きものゝ上に (師範生)

四六判最上製  
美本四百頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

弱きものゝ上に恵まれた様々な虐げと呪いと脅迫のどん底に悩みもがき乍らも尚且つ其の清く美しくい心を失はなかつた一師範生の雄々しい人生の記録を見よ。藝術と教育の葛藤 黒棘・論争・利己・嫉妬・欺瞞とあらゆる險惡のすがたにむせ返る師範教育の現状はわが新人の深刻なる描寫によつて遺憾なく暴露された。

◇奈良女子高等師範學校訓導 櫻井祐男氏新著

# 忽五版 生を教育に求めて

—(四六判最上製美本 金貳圓八拾錢 送料十二錢)—

東京 大 同 館 藏 版

著者曰く私はよほどの激撃と激震をもつてこの書を私の同伴の士たる天下幾萬の青年教育者諸君に捧げたいと思ふ。主人公欽一は人生の寂寥さに悶えながらも尙ほ己が生の尊美と優越に深き固き信條と信念を有ち教員を以て己が人生——生活と思想し其生活的顯現の爲に日夜の赤誠を致さうとしてゐる。而かもそこに總てを捨て、總てを獲ようとする矛盾撞着のたゞ中に仁王立ちに奮激してゐる。彼が性格の強さ弱さが思はれるであらう。その強さ弱さから来る彼の懊惱と約略は解決は解決のまゝに未解決は未解決のまゝに必ずや讀者諸君の人生の上は何等かの示唆と感激を齎すであらう——ことを疑はない。

内容目次一斑 (一)唯一途に吾れを愛すが故に……(二)紅き血と高き鼓動と……(三)「教育即生活」と信念するまで……(四)天の慧光地の靈湯……(五)雛を有つ母鷄を慕ひて……(六)子供よ、總ての絆を解いて平明に……(七)哀れ子供の批……(八)産合ふ如き慈雨……(九)彼の出動を駈ひて……(一〇)疲れても尙ほ輝かしき遠足……(一一)生れざるものゝ悲哀……(一二)梧桐の蔭に立ちて……(一三)總てがな生活——美……(一四)温かに柔和に自然に……(一五)先生太鼓の音が聞えます……(一六)唯悲壯と流る——尺八の音……(一七)唯一日を休ふ……(一八)啼かざる鳥……(一九)總ての制縛に堪へて……(二〇)奈良に来て唯一の財寶……(二一)微いものは辱し。その生は震へてゐる……(二二)同志よ來れ語らうに……(二三)同職の士よ何を見よ。

大 同 館 發 行 書 目 錄

◇小林一郎氏新著◇ —(絶大の好評を博して増刊出来)—

好評  
四版

芭蕉翁の一生

四六判最上製美本  
本箱入全壹册  
六百八拾頁  
金貳圓八拾錢  
送料十八錢

著者が多年敬仰愛慕の  
熱情遂に本書を成す

其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如く  
に多くの崇拜者をもつて居る人は今古の詩人  
文士中に曾て例の無いことである此の如き人  
の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓  
を得べきものである著者は俳諧の専門家では無いが翁の作を愛誦すること既に三  
十年翁を識る上に於ても一種の自信をもつて居る隨て著者は此書を現代各階級の  
人に薦めて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

目次  
一 班

吾が師芭蕉翁 少時の芭蕉翁 正風の隆興 更科の月 最後の行脚  
寂しき中の力翁の遺世 辛崎の松 奥羽行脚 臨終の前夜  
胸裏の別天地 寛文前後の俳壇 古池の句 奥のほそ道翁と其の門弟  
忙しき時代翁の東下 鹿島の月見 三代榮華の跡 天才と努力  
趣味の生活芭蕉 蕉庵の 小文 幻住  
翁の時代 野ざらし紀行 芳野行脚

◇瀧本二郎氏新著◇ —(國家及人類の爲に警醒を促す)—

三版 社會労働問題と産兒制限論

四六判最上製  
美本全壹册  
正壹圓八十錢  
送料十二錢

新マルサス主義は創唱せられたれども未だ完全に批判せる書は出ず本書は著者が専攻の社會労働問題の  
これが根本的解決は産兒制限による外なしとの見地より歐米に親しく留學して英・米・佛・獨・露・等諸國の  
労働状態を精査してその所信の正否を検討研究力説せるものなり。内容は大家族制の悪弊と産兒制限の  
社會政策解決と産兒制限：人類解放實現と産兒制限：人道と産兒制限：基督教と産兒制限：民  
族自滅論と産兒制限：世界平和實現と産兒制限：英米に於けるマルサス主義：等熱血な著者の  
筆は自覺ある現代青年者有識者には必ずや何らかの暗示と啓發とを與ふるであらう。

◇江幡龜壽氏新著◇ —(生物界の研究は近來白熱的に盛なり)—

三版 増訂 教育的生物學

四六判最上製  
美本全壹册  
正金貳圓  
送料十二錢

生物學は地球生物群の成立發育の因由に其法明を明かにせんとする學である此の學に依らずんば人間  
の真相と人生の歸趣を知るを得ず本書は著者が専攻の生物學を教育的見地より平易に講述せるものにして  
實に現代必讀の書なり。  
(目次の一斑)：生存慾の具體的表現：原始生活より智的生活へ：生物學的學觀：死と永生：  
：遺傳と人生：生の闘争と人口論：生命の繼：人類の運命觀：生物學上より觀たる人間作成の  
力：人間の發育と教育：青年女性の研究：婦 改造論と生物學的批判：社會問題と生物學的意義

東京 八七番  
金田 七番  
口金 七番  
香 七番

大 同 館 發 行

東京 市 神 保  
區 田 町 七

書良き可ふ備を本一非是に校學小

▲教授用と檢定受験用とを兼備せる隨一の國史參考書▼  
國學院大學 師文學士岡部精一氏 高橋與惣氏共著

# 再 文部省檢定 大日本歷史 版 試驗問題對照

●菊判クロース製最上美本 紙數九百五十拾頁 全壹冊 正價五圓八拾錢 郵稅廿四錢

本書は各種○校の國史科教授の參考に供し兼て各種の受験準備に資せんが爲めに編纂せるものにして教授參考に供する方法としては現行文部省の中等學校及教小學校の授細目を基礎とし之れを適宜配合して編纂を分ち國史の本幹を形成せる事實を精細に通説し又古今史學家の發表せし新説の確健なるものは努めて之れを採録せり。試験準備に資する方法としては第一回より第廿六回に至る文檢試験問題を發題者の要求を推究探尋して一々精密に解釋し盡く各章末に添附せり。加ふるに編者多年の經驗と研究とを以て些の遺漏なきを期したれば諸學校に取りては繁簡適宜あらゆる重要史實を網羅して餘蘊なき最も完備せる國史參考書たるべく檢定受験者殊に小學校教員諸氏に取りては教授用と受験準備用とを兼備せる斯學隨一の羅針盤たるべし。

發行所 東京市神田區表神保町六番地 振替貯金口座東京八七貳番 大同館書店

東京高等師範 學校教授文學士 中村久四郎先生 高橋與惣先生新著

## 第參版 文部省檢定 受 驗 用 東 洋 通 史

菊判最上製美本全一冊紙數九百餘頁正價金四圓八拾錢郵稅二十錢  
本書の組織は現今中等學校の授細目を適宜配合して四編六拾五章に分ち著者多年の實地的經驗を基礎とせる獨創の排案に據り上下五千餘年に亘れる諸民族の盛衰興亡より政治・風俗・學術・文藝・宗教・制度の一切を網羅し東洋史實を盡く有機的連絡の下に最も平易正確懇切に通説せり。そして從來の東洋史の最大缺點たる記述の無味乾燥及び繁雜に過ぎずば簡易に失せる缺點・地名人名の難讀・官職の難解等を補ひし外古今東西史學者の披瀝せる學說の穩健なるものは努めて之を採録し一々出所出典を明示して研究者の便に資せり。又文部省檢定試驗問題の第壹回より最近に至る迄の分を盡く明瞭に解答し之を本文の間に分載し以て受験者に一大秘庫を提供せり。要するに本書は文檢受験用の名を冠すと雖も一切の史實を通説せるは勿論古來日支兩國の關係殊に最近世東洋外交上の事件人物を詳説したれば實に中等教員小學教授參考及文檢受験者の一大秘庫たるのみならず史學研究者世の識者も亦座右に備へて大に裨益なかるべからず。

東京 大同館發行 神田



大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

東京帝國大學文科助教授 文學士 宇野哲人 先生新著

四書講義 大學

菊判最上製美本  
全壹册參百五拾頁  
正價金貳圓  
郵稅金十二錢

好評 五版

大學は儒教の目的を最も善く組織的に叙述せるものなりとは著者の創唱する所、此書は如上の見解によりて平易明晰に講述せるものにして冠するに大學要行を以てし附するに索引及之と密接の關係ある幾多有益の研究を以てす。苟もくも儒教の何物たるかを知らんと欲せば必ず此書を繰りて著者の圓熟せる講話を聞かざるべからず。

東京帝國大學文科助教授 文學士 宇野哲人 先生新著

四書講義 中庸

菊判最上製美本  
金壹册貳百八拾頁  
正價貳圓五拾錢  
郵稅十二錢

好評 五版

儒教の目的は大學に備はり、儒教の根本義は中庸に明かである。かくて學庸の二書は講義となり緯となり。互に相待つて儒教の真相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著し、今亦中庸講義を著す。大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の士は講義を更に中庸に就いて儒教の眞面目を了せよ。尙附録教篇は皆直接間接に中庸の意義を明かにするものである。

京都帝國大學文學部教授 文學博士 三浦周行 序  
京都帝國大學文學部助教授 文學士 本庄榮次郎 文  
坂上信夫 新著

新刊 土地爭奪史論

四六版最上製  
美本 全壹册  
正價金貳圓  
送料十八錢

土を負うて土に反り行く者の土の上に畫ける生活の歴史である。國史三千年の推移を辿つて吾等の祖先が如何なる生活の姿を其上に遺したであらうか。土地制度の歴史を説く間に、人間性の歸趨を靜觀して其姿を凝視しつゝ、自分の腕に火をつけてその燃ゆる腕を捧げて叫ぶに非れば吾世の闇は露れないであらう」といふ結論に導いて行く。深い思索と豊かな情操と燃ゆるが如き火の文字を此一巻の處女作に収めて著者は之を江湖の有識者に捧げ其示教を俟つといふのである。

新井白石氏遺著 (國史研究者唯一の參考書)

五版 讀史餘論

四六版最上製  
美本 全壹册  
正價金貳圓  
送料十八錢

白石の讀史餘論の價値は今更論ずるの要なし本書は主として白石の外孫藤清盈の謄寫本に據り其他諸種の異本を参照して増補せるものなれば從來世に現れたるもの、中で最も信頼するに足るべし。そして原本の評語註語のほか新に校訂者が補語を附し以て異説を擧げ且つ註釋を施して研究者の便を計れる勞は多とすべし且つ一々讀み假名を附し巻末に索引を添へたり。 (内外教育評論)

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松 安著 (類書中の白眉)

# 七版 古事記新釋

四六判最上製美本  
全一册五百餘頁  
正價 貳圓五拾錢  
送料十八錢

著者はこの古事記を説くに當つて神代の卷に最も力を注いだ事を一言して置く索引については單語の解説を見出し得るのみならず古事記本文の事項を探り得るから目錄の代用となる。●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる書論的文章は各篇章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり。今や大戦後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これを得よ。

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松安新著 (四六判最上製美本全貳册 紙數壹千參百餘頁箱入)

# 再版 註釋 假名の日本書紀

(上卷)  
金參圓五拾錢  
(下卷)  
金參圓八拾錢  
送料各廿四錢

日本書紀の一體に假名日本書紀といふものゝ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ普く其存在を知る人が少い。本書は著者が出来るだけの手を盡して調べた廿餘種の異本を参照して著述したものである。内容は本文を漢字交りに書下し漢字に振假名を附し假名を當て一段毎に補明たる。●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる書論的文章は各篇章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり。今や大戦後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これを得よ。

發兌 東京市神田區 大同館書店  
表神保町七

早稻田大學文學士 原田實氏新譯 四六判全壹册 最上製美本 金貳圓五拾錢 送料金十二錢

# 七版 エレンケイ 女史原著 兒童の世紀

エレンケイ女史の名は今や全く世界的である。女史の至純なる戀愛を高調し高尚眞面目なる結婚を主張するは何の故ぞ！其間に生るゝ兒童を眞の人格者たらしめんが爲である兒童を眞の人格者たらしむるは人類を眞の人類たらしめて幸福と平和と悦びとを此世に齎し生命に輝く世界を創造せんが爲めである。その第一の又最大の準備として女史の主張するものこそ所謂「兒童の世紀」である。内容は兒童中心の思潮を徹底的に説けるものにして佛のルッソーの「エミール」に次ぐ大名著と稱せられ齊に教育社會のみならず一般の歐米人に甚深い印象を與へ今日の教育を導く一の光明となつて居る。譯者は夙に女史の偉大なる思想と人格とに敬服し多年其著作に親炙するもの其敬仰の熱情遂に技に女史が代表的著作の全譯となる或は涙に濡れ或は力に輝く其の原文を移植し得て餘す所なし我が思想界教育界婦人界は本書を得て一の至寶を加へたりと謂つべし。

東京市神田區 表神保町七 大同館發行

早稻田大學講師 本間久雄氏新著 四六判上製 美本全壹册 正價金貳圓 送料金十二錢

# 三版 エレンケイ 思想眞髓

エレンケイ女史は最も熱烈に戀愛を高調し戀愛中心の結婚を主張し同時に戀愛のない結婚生活に向ふて最も大膽なる自由離婚を主張した人である。女史は性に對して最も大膽なる舊道徳の破壊者であり最も熱烈なる新道徳の建設者である而してこのエレンケイ女史の思想と人物とを最も平明に最も簡潔に最も味ひ深く書いたものは本書である。

文學士 小林一郎 先生 新著

# 第三版 自由の生活

思想界の混亂は實に未曾有である。吾等は此間に處して如何に吾等の活路を開いて行くべきであるか今は徒に樂觀するを許さぬ又徒に悲觀すべきで無い。之を過去の経過に徴し現在の情勢に照して今後の立場を確と定めなければならぬ著者は此の見地から日本の文明の過去及現在に對して自由なる批評を試みた。現代に處して意義ある生活を爲さんとする人々の一讀を勧める殊に青年の人々と青年の指導の任に在る人々は必ず精讀すべきである。

## 目次

萬事は是からである……誰が責任を負ふのか……國は自分のものか……武士と百姓町人……忠義を誰に盡すべきか……倭寇と海外貿易……町人の意氣抱負……自らの犠牲……忠義の觀念……徳川氏三百年……事無から主義……鎖國の二百年……利用厚生……流れる水は腐る……心……町人の氣焔の吐き所……西力東漸の勢……幸運に抑れてはならぬ……王權の衰微……眼……大局に注目……國家の柱石たる覺悟……少壯者の時代……國體の精華……皮相なる西洋文明觀……近世文明の特色……貴き犠牲……自ら侮れば人之を侮る……日本人は劣等の人種か……西洋と信仰……功利主義の繁昌……自由平等論の勃興……自治とは何であるか……世界の眼……百年の後

四六判最上製全盛  
紙五百五十頁  
正 價 貳圓五拾錢  
送料 金貳拾錢

市川一郎氏新著 (最も初學者に適する入門書)

# 第三版 最新認識論講義

本書は認識の根本問題に關する過去現在の學說を真に何人にも理解し得るよう巧妙簡明に講述せるものなり。一度本書を讀く時は哲學的論理的思索に無理解なる人士も將又既刊類書の難解に絶望せる人士も易々として眞理探求の眞方法を會得するの歡喜を味ひ得るや疑なし篤學の士の愛讀を待つや切なり。

市川一郎氏新著 (現代教育者必讀の要書)

# 第三版 教育の基礎たる社會學

本書は米國碩學の近著に係る應用社會學の一なる教育的社會學に據て社會學の主要なる原理と此原理に立脚する教育說の社會學的解釋とを講述せるものである。過去の因襲教育が心理學に依て改造せられたるが如く、行き詰れる現代の教育は是非共社會學に依て改造されなければならぬ。實に本書の説く廣大にして根本的なる教育說は狹隘なる天地に閉關せる今日の教育を廣闊清朗なる曠野に誘導するものである愛國の士の必讀を要請す。(文部省は勅令を以て社會教育課を新設す)

四六判洋裝  
正 價 金壹圓  
送料 四錢  
五拾錢  
正 價 金貳圓  
送料 十二錢

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

**小林榮子女史校訂** 四六判最上製美本 全壹冊七百八拾頁 價正金參圓五拾錢 送料十二錢

**版四 近松世話淨瑠璃集成**

原作は妙趣盡きざる世界的名著  
校訂者は隠れたる女流國文學者

近松世話を充てたる校訂者の苦心によりて千古の俗語、佛典の成語はしむべく、現代人にも光彩を發揮して讀者の眼前に展開せらるべし。夫君一郎の序論亦的確にして、松をして地下に領かしむるものあらん近松の作を多く讀むる人も讀め。

長町女腹切 堀川波の鼓 三郎兵衛今宮心中 山崎與次兵衛壽門松  
淀鯉出世瀧徳 與兵衛卯月の紅葉 心中又は永の朔日 博多小女郎浪枕  
會根崎心中 心おかめ 夕霧阿波の鳴渡 心 中 天 網 島  
源吾兵衛薩摩歌 心おとひ 中 卯月の潤色 心 女 中 殺 油 地 獄  
おま 人 摩 心 伊 達 中 染 手 網 心 中 殺 宵 庚 申  
心中二枚繪草紙 恋八卦柱曆 五十年忌 念 佛 鎗の權三重帷子 心中二ツ腹帶

最新刊

近松傑作時代淨瑠璃集成

●●大近松の時代淨瑠璃傑作選集出づ!!●●  
小林榮子女史校訂 (四六判最上製美本 全五冊五拾錢 送料金廿四錢)

近松遊いて既に二百餘年世に其の天才を讃嘆する者益々多きを加ふるは偶然にあらず就中其時代淨瑠璃は趣向の雄大描寫の鮮麗なる文章の雅建なる後世作者の到底企て及ばざる所なり。今其中に於て殊に傑作と稱すべきものを精選し用語には一々適當なる漢字宛故事には一々正確なる考證を加へ義に世話淨瑠璃の校正に費したるに數倍する精力を傾けて本書を成せり。苟くも近松の眞面目を知らんとする人は必ず一本を手にせざるべからず

目 次

出世景清	百合若大臣野守鏡	日本振袖始	雙生隈田川
釋迦如來誕生會	吉野都女楠	會我會稽山	傾城反魂香
百日會我	狐山姥	傾城酒吞童子	室町千疊敷
最明寺百人上臈	孕當盤	本朝三國詩	信州川中島合戰
雪女五枚羽子板	國姓爺合戰	平家女護鳥	關八州聚馬

東京市田表神保町 大同館藏版

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

◆ 一條忠衛著 ◆

—(諸種の婦人問題産兒制限問題を論述)—

男女の性より觀たる社會問題

四六判最上製美本  
正價金壹圓八十錢  
送料十 二 錢

社會問題と云へば専ら經濟上の問題になつて居る。けれども人間の經濟生活と云ふものは男女の性に由來した現象である。人生に男女の性と云ふ事實がある故にその男女の性の社會を維持する爲めに經濟生活が生じ隨つて其處に諸種の社會問題が起つて來るのである。故に男女の性より社會問題を觀ることは社會問題解決の根本的研究である本書の著者は特に倫理學者として之を性の倫理より考察して社會問題研究の新方法を創始したのである。是れ本書の一大特色であつて他に比類なきを誇る所以である。

◆ 一條忠衛著 ◆

—(男女問題を解決する一大光明)—

好評 五版 男女道德論

四六判最上製美本  
金貳圓五拾 錢  
送料十二錢

人生の歴史は男女の歴史である。一切事件は男女を背景としてゐる。本書は第一章 緒論……第二章 男女道德の倫理的的地位……第三章 男女自覺……第四章 男女同權……第五章 男女本位……第六章 戀愛……第七章 結婚……第八章 離婚……第九章 獨身……第十章 醜惡の處分……第十一章 結論……よりなり興味ある問題を捕へて分析解剖し高遠なる理想に照して之を批判せる書也。  
『男女問題講話貳圓五十錢』と共に大歡迎を博せるものなり

◆ 文學博士 富士川 游 一 序 ◆  
◆ 佛敎大學教授 梅原眞隆 一 文 ◆

文學士 朝日融溪氏新著

五版 親鸞聖人の出現と思想

四六版最上製  
美本全壹冊  
正價金壹圓八拾錢  
送料十二錢

歴史は時代々々の偉人と稱へらるゝ非凡人の記録であつた。彼等は自己を以て世を任せんとしてゐた。或は政權によつて或は軍權によつて或は命權によつてさうして互に交噬し相排擠し血みどろになつて喘いでゐる吾人はつくづく非凡人文化に愛想が盡きた。嫉妬・排擠而して自己宣傳もう見ても聞くも嫌だ一日も早く凡人文化の建設に急がなくてはならぬ早ければ早いだけ眞の平和は早く來るのだからしてこの凡人文化の歸結は我が親鸞聖人の思想によつて完しといつてよいのである。

◆ 渡部政盛氏新著 ◆ —(青年教育の慰安書)—

新刊 異端者の悲しみと歡び

四六版最上製  
美本全壹冊  
正價金貳圓  
送料十一錢

異端者の悲しみと歡び!!本書は此の獨身者の孤獨者異端者が卅年の思想及生活を記録し叙傳したものである。家庭の逆境と身體的缺陷とは早くも彼れを孤獨に導いた彼は孤獨ながらに伸びた。彼は學校歴と云ふものをば有たない檢定難と異端者の不取扱の中に變則的に其の自我を實現した而も彼は今日教育思想界學術界の一大野榮として社會的に認識せらる。沈痛なる「異端者獨學者の悲しみと歡び」が青年の胸に孤獨の貴さと人間性の偉大と多大の慰安光明とを與へずにはおかないであらう。

◆渡部政盛氏新著◆ 菊判最上製美本箱入 紙數七百餘頁全壹冊 金五圓八拾錢 送料金廿四錢

# 三版 集說 批判 教育學概論

本書 六大 特色

- ▲教育概念の批判的本質的闡明
- ▲教育學概念の科學的哲學的論明
- ▲新教育學體系の模範的確立
- ▲教育基礎論なる新研究項目の特設
- ▲教授訓練二方便説の徹底的主張
- ▲最近教育思潮の批判的攝取

本書内容は(一)歴史批判(二)事實批判(三)現代思潮批判(四)目的々本質的批判に立脚して最眞最善の教育原理を闡明し實際教育に對して最も根本的なる最も最新なる規範を提供したのである。教育一般を研究の對象として科學に立脚しながら哲學を忘れず、教育の意義、教育學の概念を諸方面から縱横に考察論明し特に理論的教育學の新體系を確立し教育原理の基礎論として詳細なる被教育者論及社會人生論を試み目的概念としての文化的人格の形式内容を精説し教授訓練の二方便説に隨つて方法論を二分的に説述し最後に独自の見地から教育動力論(教育者論)を試み機關論をなした。系統的てふ形容の意味は本書に於てのみ味ふことが出来やうかと思ふ。本書は眞に集説的にして批判的である。教育學研究者文檢受驗者學校圖書館の必備及清鑑を俟つ所以なり。【執筆六個年で定成せる苦心の大著】

東京神田表神保町七  
大 同 館 行 發

大 同 館 行 發 館 目 録

## 渡部政盛先生新著 日本教育學說の研究

菊判最上製表本 全壹冊五百餘頁 參圓八拾錢 送料金廿四錢

我が國の教育學は今や全く行詰つて仕舞つた。吾人は之を打開せねばならない。本書は斯くの如き貴き使命を帯びて公にされたものである。内容は諸論：第一章明治前半期の教育學說：第二章日本最近の教育學說：第三章個人的教育學說(谷本)第四章社會的教育學說(熊谷、樋口、吉田、田中、野田)：第五章調和的教育學說(大瀨、森岡、小西溝淵)：第六章生活完成の教育學說(下田)：第七章文化的教育學說(乙竹)：第八章人格的教育學說(中島)：第九章實際的教育學說(澤柳)：第十章自動的教育學說(河野)：第十一章公民的教育學說(川本)：第十二章創造本位の教育學說(稻毛)：第十三章分團動的教育學說(及川)：結論：の諸章より成つてを成る。特色は諸家の學說の詳叙と忌憚なき批判とにあるは言ふまでもない。隨て學者先づ本書を讀むの義務があり。教育學者文檢受驗者は本書に依つて學者の說の要點と長短とを知る必要がある敢て弊館の大言以て江湖に本書を推薦する所以である。

### 文檢受驗者の最大福音

東京帝國大學 文學博士吉田熊次序市川一郎譯著

# 教育の基礎たる哲學

常識と科學との部分的な人生觀及教育觀を排して哲學的即ち全體的人生觀及教育觀を與へ以て我國教育家をして明晰なる思想の所有者たらしむること之れ本書の使命なりとす。明晰なる思考より生ずる驚異すべき力の利用は凡ての事業を最も有効に而も極めて容易く且大なる喜悅を以て爲さしむるは多言を費さずして明かなるべし。原書は米國最近の名著、譯文亦平易簡明哲學的要

素養の皆無なる人士と雖も易々として現代哲學の概觀を捉提し健全なる哲學的的人生觀及教育觀を樹立し得、以て從來と全く異りたる意義あり價値ある新生命を開拓し得んこと疑なし。

精論：第一章科學の目的範圍並に方法：第二章哲學の目的範圍並に方法：第三章科學と哲學との一般的關係：第四章哲學と教育との關係：第五章主意的唯心論の倫理學の教育的意義：結論。

第六版最上製本  
定價正金  
貳圓五拾錢  
送料二十錢

東京帝國大學 文學博士宇野哲人氏新著 (四六判最上製) 美本五百餘頁

# 支那哲學の研究

定價正金  
貳圓五拾錢  
送料二十錢

支那哲學史講話の姉妹篇 本書は上は三代より下は近世に至り或は一代の思想を概論し或は特殊の問題を細叙し支那哲學に關する博士獨特の研究は殆んど此書に網羅せらる。講話を読んで略々大意に通ずる者は更に此書に就て斯學の堂奥に參せよ。

東京帝國大學 文學博士宇野哲人氏新著 (四六判最上製) 美本三百餘頁

# 最新刊 二程子の哲學

定價正金  
貳圓  
送料二十錢

支那哲學の權威 著者は常に明道程子を推稱して孔孟以後の第一人とし私淑するもの故に年あれば與に共に聖學を倡明せし伊川程子も亦吾人の知らねばならぬ所特に二程子け其學風夫れ特長ありて後來宋陸の二大學派を開き宋學に於て最も重要な位置を占むるのでこゝに伊川程子の哲學をも併論する次第である。善く讀む者は此書の獨り二程子其人を學識せしむるのみで無いことを知るであらう。

ド  
イ  
ロ  
ソ  
フ  
イ  
エ  
上田恭輔先生著 (類書は皆本書か)  
ら取れるもの也

好評  
三版

# 生殖器崇拜教の話

袖珍併裝美本  
全壹冊百六拾餘頁  
正價金六拾錢  
送料二錢

本書は、當今大人氣の性慾問題を捉へて流行の風潮に乗せんとするキワ物では御座らぬ本書は紀州の南方は既に英譯あり佛譯あり生殖器崇拜問題を學術的組織的に研究したる本邦最初の試みである、敢て讀者の一讀をすしむ。

東京市聯合青年團講師 浦谷甫水氏著

好評  
再版

# 徹底せる心の生活

四六判最上製美本  
全壹冊三百餘頁  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

國民として亦個人として思想の動搖●精神の不安實に今日ほど甚しきはなし、此時に際會せる青年少者の心は洵に同情寒心に堪へざるなり、本書は著者が體驗自得せる自己の信念を極めて平易に吐露し以て彼等の精神に一道の光明を寄與し其の生活を意味深からしめんとせるもの、一言一句皆其の肺腑より出で痛切懇篤の情潮せる一大修養書也、勿論徹底的的精神的に人生を觀超然として悠々自適而もなほ能く眞面目に奮闘的氣分を高

◇福田正夫・井上康文氏共著◇

袖珍最上製 金壹圓貳拾錢 送料金  
美本全壹冊 十二錢

# 忽七版 童謠民謠詩の作り方

この書は單なるつくり方ではない。著者が詩壇に於ける永い間の體驗によつて生まれた實際的良書である。北原白秋・西條八十・白鳥省吾・野口雨情諸氏の評論を引用して童謠のつくり方を説明し民謠抒情小曲に至るまで詳細をつくし殊に詩に於ては福田氏が博く深く日本の詩壇全體に亘つて作例をあげて説明す。三木露風・北原白秋・室生犀星・富田碎花・百田宗治 諸氏の作の解剖的説明等恰も一大詩篇を讀むが如きである。しかもやさしい親切な詩のつくり方の絶好書である。

福田正夫共  
井上康文著

## 童謠民謠詩傑作選集全

正價壹圓五十錢  
送料十二錢

奈良女子高等師範學校訓導  
河野伊三郎著

## 兒童童謠選集 銀の笛全

正價壹圓五拾錢  
送料十二錢

黒川延平著

## 童謡こんこん小雪全

正價壹圓五拾錢  
送料十二錢

岡山女子師範學校訓導  
奥山禱太郎編著

## 全國傑作童謠一千選全

正價壹圓八十錢  
送料十二錢

座口金貯替振  
番貳七八京東

大 同 館 發 行

東 京 市 神 田 區  
表 保 町 七



◇橘 惠勝氏著◇—(印度佛教思想史の著者)—

# 最新刊 支那佛教思想史

—(菊判最上製美本全壹冊七百餘頁箱入正價金四圓八拾錢送料十二錢)—  
著者が多年苦心研究の大著出現 本書は支那佛教の發達を史的に跡づけたるものとして支那の民族性に基礎づけられたるものである。支那佛教は支那人の理解したる佛教にんとするには先づ支那佛教の一般傾向と特色とを觀察して我邦の佛教を研究せぬ。本書は支那思想の全體を批判的に取廣義に支那思想史として見ることが出来る。扱ひたる科學的研究の結果であるから 廣義に支那思想史として見ることが出来る。(著者識)

日蓮宗大學講師  
小林一郎 著

## 日蓮主義概論

好評 三版

日蓮主義は現代の人の宗教的要求に應ずべき最も進歩せる教義なり。國運の發展も個人の安心も此の教義に基づきて初めて可能なり。本書は著者が因はれざる自由の見地より日蓮聖人の眞精神を發揮せんが爲に特に執筆せるものにして先づ華經の梗概を擧げ次に聖人の教義の精髓を語り現代思想との交渉近世科學との關係を論じ眞面目に其所信を告白せるものなり思想問題に注意せる人は必ず一本を手にはせざるべからず。

四六判最上製美本箱入  
正價金貳圓八拾錢  
送料十八錢

早稻田大學講師 本間久雄氏新著 (忽三版)

# 現代の思潮及文學

—(四六判最上製美本 全壹冊四百餘頁 正價金貳圓參拾錢 送料金十二錢)—

現代の民衆生活の立場から解説批評せし文化問題二十講出づ

の人々にも充分興味ある暗示と啓發とを興へるであらう。

### 次目内容

- 第一章 社會改造運動と當來の文藝……第二章 民衆藝術の意義及價值……第三章 ウイリアム・モリスの民衆藝術論……第四章 徳川時代に於ける民衆藝術の勃興……第五章 解法の詩人……第六章 人生派の批評 藝術派の批評……第七章 藝術の社會的價值……第八章 ボサンケ氏の美學……第九章 グライプ・ベル氏の戦いと藝術……第十章 國家主義と世界主義……第十一章 二つの愛國心……第十二章 現代とジャーナリズムの意義……第十三章 二種の平和論……第十四章 性的道德の新傾向……第十五章 現代婦人と世界的不安……以下略す

吾々の生活をよりよくし、より豊富にするには如何にすべきか。かういふ實生活的要求を根柢として多種多様な混沌として歸趨するところなき近代並に現代の思潮及文學中より最も重要な二十種の問題を囚へてそれを檢校し解説し批評し講述したのが本書である。而も著者は飽くまでも謙虛な心と穩健平明な文章とを以てしてゐるから新生活の要領者にはもとより一般の人々にも充分興味ある暗示と啓發とを興へるであらう。

好評  
三版

# 教育改造の原理

四美正價送  
六本三金  
上最判百  
製買餘貳  
圓二十錢

◇永野芳夫先生新著◇——(著者自信ある著作)——  
感賞の生活●智性の高調●現在の讚美●  
の原理也。試験の全廢●賞罰の廢止●學年制度の棄却●附加的權威の排除●藝術自由教育の徹底●固定道徳律の破壞●現行歴史の埋葬●平凡宗教の蹂躪●過去の哲學宗教教育藝術道徳の悉皆破壞されこゝに新に建設の萌芽を生ず。是れ又一切生活の根本改造にしてラセルのそれより更に深遠切實なり教育家青年の思想家に薦む。

◇栗山周一先生新著◇

四六判 正價貳圓八十錢

送十二錢料

好評  
七版

# 最近歴史教育の根本革新論

新時代の教育は新思想の上に立脚すべし。無自覺なりし舊教育は此際断然地棄破せざるべからず。而して舊き事その物を教授する歴史科の如きは最も根本的の改革を要す。本書は新教科書の生れ出でたるを期し依りて原稿紙一千枚に書き上し血書なり從來の歴史教授法を破壊したるは本書なり將來に於て行はるべき新教授法を建設したるも亦本書なり。歴史哲學の根本的原理に立脚したる歴史の教授法は本書を以て嚆矢とす。

第三版

# 文檢教育史

東日本  
西洋

渡部政盛先生新著

〔菊判最上裝美本九百頁 金六圓八拾錢 郵稅廿四錢〕

(完備せる最新最詳の世界教育全史出來)

文檢教育科  
受験者必讀書

内容目次一斑

緒論：教育史の意義：教育史の價值：教育史研究法：三大教育史の特色：本書の目的及内容：西洋教育史：第一編古代の教育：第二編中世の教育：第三編近世の教育：第四編最近世の教育：東洋教育史：第一編支那の教育：第二編支那以外に於ける亞細亞諸邦の教育：日本教育史：第一編古代の教育：第二編中世の教育：第三編近世の教育：第四編現代の教育：第五編日本新領土並に殖民地の教育：(以上各章及細目は略す)

東京帝國大學 文學部教授 文學博士 宇野哲人先生新著

# 支那哲學史講話

菊判最上製美本  
全壹册五百頁  
正價金  
貳圓五十錢  
郵稅拾八錢

## 第拾五版

本書は上古より清末に至る支那思想の概要を極めて平易に簡明に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裏に革命を惹起するに至りしか支那の新人の思想は如何なる傾向を帯ぶるか著者の最も留意せし所にして從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依りて補足せられて亦遺憾なし本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに發見を窺ふに便し亦著者の議論の根據あるを知らしむ要するに本書は初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の名著なり。

教育學術會編纂 (文檢修身科・漢文科) 受驗者の福音 最新刊

# 文 驗 論 語 解 義

四六判最上製美本  
約六百餘頁箱入  
正價金  
貳圓八拾錢  
送料十八錢

修身科漢文科の文檢試験には毎年論語から問題が出る問題は字句の解釋と思想の叙述とだがかかる要求に十分應じ得る参考書は從來見當らない本書は此の要領に添はんとために採集せられたものである。内容は(一)所題(二)字句講義(三)思想研究の三篇より成り思想研究の部には根本思想論思想政治思想人性に關する思想教育思想宗教思想其他を講明した最後に論語思想を史代の思想の上から縱横に批評を試みた文檢修身科・漢文科・教育科受驗者には是非一讀すべき良書である。

263,3  
174

終

